

令和5年度
学びに向かう力推進事業
幼保小の架け橋プログラム事業
取組のまとめ

令和6年3月
滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課

目次

はじめに	2
------	---

研究指定校園の取組まとめ

研究2年目

守山市立認定こども園守山幼稚園、守山市立守山小学校	3
---------------------------	---

「気付き、考え、主体的に学ぶ子どもの育成
～自立をめざした幼小連携を通して～」

資料 研究指定校園で作成した架け橋期カリキュラム 等

研究2年目

日野町立南比都佐幼稚園、日野町立こぼと園、日野町立南比都佐小学校	11
----------------------------------	----

「自分の思いや考えを表現できる環境づくりや支援の在り方
～『育ち合う』子どもから『学び合う』子どもへ～」

資料 研究指定校園で作成した架け橋期カリキュラム 等

研究2年目

「幼保小の架け橋プログラム事業」指定校園 彦根市立彦根幼稚園、彦根市立東保育園、私立聖ヨゼフこども園、 私立るんびに一保育園、彦根市立城東小学校	20
--	----

「目指す子どもの姿に迫る主体的・対話的で深い学びの実現に向けた保育・授業の在り方
～『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を踏まえた幼保小連携を通して～」

資料 研究指定校園で作成した架け橋期カリキュラム 等

研究1年目

私立ありす保育園、私立金田東保育園、近江八幡市立金田幼稚園、 近江八幡市立金田小学校	30
---	----

「豊かな生活経験をする中で、自分の思いや考えを表現し合える子をめざして」

資料 研究指定校園で作成した架け橋期カリキュラム 等

研究1年目

甲賀市立雲井保育園、甲賀市立雲井小学校	34
---------------------	----

「進取の心を育み、仲間と共に学びあう 雲井っ子の育成
～自ら考え、伝え合い、認め合う子どもを目指して～」

資料 研究指定校園で作成した架け橋期カリキュラム 等

はじめに

県教育委員会では、幼児教育と小学校教育の滑らかな接続を目指して、「学びに向かう力推進事業」を実施しています。令和2年度からは、研究指定の小学校に加配教員を配置し、週15時間程度、幼児教育施設で保育に参画するとともに、打合せや保育の準備に参加しています。今年度も、各研究指定校園では、「学びに向かう力」の育成につながる指導内容や方法の工夫改善について、研究を推進していただきました。

また、令和4年度からは、国の委託事業「幼保小の架け橋プログラム事業」を受け、指定校園には、公私や施設類型の違いを越えた幼保小接続の実現を目指し、取組を進めていただいております。この中で、5歳児4月から1年生3月までの2年間、いわゆる「架け橋期のカリキュラム」作りにお取り組みいただいているところです。この取組は、すべての指定校園の取組としています。

本事業の目標は、画一的なカリキュラムの作成ではありません。作成に関わって、子どもに関わる大人が、期待する子ども像、期待する子ども像に関連がある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」、大切にしたいことなどについて話し合い、幼児教育施設と小学校、また、幼児教育施設同士が互いの理解を深めることを大切にいただいております。最終的には、互いの保育・授業の質を向上させること、幼保小の滑らかな接続を実現することを目指しています。

本事業の研究指定は2年間、幼保小の架け橋プログラム事業については3年間です。ここに掲載した研究2年目（3地域）、研究1年目（2地域）の取組を参考にしながら、それぞれの校園の実態に応じた幼児教育と小学校教育の円滑な接続に努めていただきたいと思います。

最後になりましたが、本指定事業に熱心にお取り組みいただきました指定校園ならびに、指定校園の研究を支えていただきました各市町の担当課の皆様、研究に協力いただいた職員の皆様、丁寧な御指導をいただいた講師の皆様に厚くお礼申し上げます。

令和6年3月 滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課

守山市立認定こども園守山幼稚園・守山市立守山小学校

研究主題： 気づき、考え、主体的に学ぶ子どもの育成
～自立をめざした幼小連携を通して～

1 主題設定の理由

本校区では、思いを表出することに自信をもち、自分から行動できる子どもに育ててほしいという願いをもって本事業を進めてきた。令和4年度は、幼小の教職員が互いの実践を知り、つながりの意識をもって保育・授業に取り組むようになった。また、「自立心」「思考力の芽生え」につながる子どもの姿をめざして架け橋期カリキュラムを作成することができた。令和5年度は、職員の連携に対する意識の拡充や研修機会の確保の仕方を工夫することで、子どもが自ら動き出す力を更に高めていく取組となるよう配慮した。

2 幼児教育と小学校教育をつなぐ取組や架け橋期カリキュラムに関する取組など

(1) 実施した研修会等

実施日	対象	内容等
4月14日	幼小管理職、園主任、 学年主任、担当者	幼小接続推進委員会① 研究課題と研究テーマ、年間実施計画について
5月1日	幼小管理職、園主任、3,4,5 歳児担任、1年担任、担当者	合同研修会① (1年授業の参観) スタートカリキュラム時の1年生の姿について
5月26日	園主任、3,4,5歳児担任、 1年担任、担当者	合同研修会② (保育の参観) 幼稚園参観から感じた こと、授業への取り入れ方について
7月25日	幼小管理職、園主任、3,4,5 歳児担任、1年担任、担当者	幼小接続推進委員会② 夏季研修会について 架け橋期カリキュラム編成委員会① 1学期の実践報 告・検討、公開研修会について、2学期に向けて
7月26日	市内幼保こ小職員	市幼小接続研修会「『主体的・対話的に学ぶ力の育 成』～子どもたちの育ちと学びをつなぐ～」
8月7日	幼小全職員	合同研修会③ 大学教授、県指導主事からの指導講話
8月21日	3,4,5歳児担任、1年担任	合同研修会④ 2学期の取組について
9月22日	幼小担当者	写真カードおよび実践記録シートの作成について
10月3日	幼小管理職、園主任、3,4,5 歳児担任、1年担任、担当者	合同研修会⑤ 写真カードをもとに情報交換、子ども の姿から捉える幼小のつながりについて
10月27日	幼小管理職、園主任、3,4,5 歳児担任、1年担任、担当者	合同研修会⑥ 公開保育・授業における接続について 県指導主事からの指導講話
11月9日	園主任、3,4,5歳児担任、 1年担任、担当者	合同研修会⑦ 公開保育・授業について、接続につい ての共通理解
11月21日	幼小職員、外部参会者	公開保育・授業、県指導主事からの指導講話、大学教 授の講演
1月11日	幼小管理職、園主任、3,4,5 歳児担任、1年担任、担当者	合同研修会⑧ 架け橋期カリキュラムの検討、 令和6年度に向けての取組について
2月8日	幼小管理職、園主任、 学年主任、担当者	幼小接続推進委員会③ 架け橋期カリキュラム編成委員会②
2月20日	幼小管理職、園主任、3,4,5 歳児担任、1年担任、担当者	合同研修会⑨ 写真カードをもとに情報交換、 令和6年度の取組確認

※ 園主任と担当者、5歳児担任と1年担任は、必要に応じて打合せや相談の場を設定

(2)加配教員の取組

◆保育への参画について

5歳児の2クラスを中心に保育に参画した。昨年度と同様に園児の活動の様子を見守り、保育者の子どもへの関わり方について学んだ。季節の移り変わりを捉えた教室の環境づくりがすばらしかった。小学校でも色紙や絵本は設置されているが、教室や廊下に季節を感じられるものを積極的に設置し、子どもの学習への関心を高めていければと考えた。

◆保育の準備、打合せへの参加について

園児降園後の5歳児担任の学年教材研究や打合せ、研究保育の参観などに参加した。園では、毎日教材研究会や打合せがあり、具体的な子どもの姿や保護者の思いを伝え合うことで、互いの保育の質の向上につなげている。職員が日々情報共有し、保育・授業や保護者理解に生かしていくことの大切さを感じた。

◆架け橋期カリキュラムの作成に向けて(資料①)

昨年度作成したカリキュラムを実施すること、今年度の実践記録シート((5)参照)を作成することが、幼小それぞれの担任にとってカリキュラムを意識し、「自立心」「思考力の芽生え」に視点を絞って日々の実践を見直すための手立てとなった。「思考力の芽生え」については、友だちとの関わりから思考力が育つことを踏まえた記述を、小学校の欄に追加した。子どもの姿が園と小学校でつながるように配慮した。

3 実践事例

(1) 小学校での「わくわくタイム」の取組

スタートカリキュラムの一環として「わくわくタイム」に取り組んだ。パペット人形を使って子どもたちに話しかけたり、お知らせを伝えたり、簡単なゲームや読み聞かせに取り組んだりして、朝や帰りの会が子どもたちのリラックスできる時間となるよう工夫した。

また、園では読み聞かせの機会をよく設定されていることを受け、「わくわくタイム」を活用して小学校でも取組を継続した。読み聞かせの機会があることで、本に関心をもち、気持ちを落ち着ける姿が見られた。さらに、子どもが自分たちの活動を振り返るきっかけの一つとして、授業の様子を模造紙にまとめ、廊下に掲示した。



【わくわくタイム】



【活動を思い出す】

(2) 「振り返る」「伝え合う」を大切にされた保育・授業

子どもたちが活動を振り返り、思いや考えを伝え合う場を意図的に取り入れた保育・授業を積み重ねてきた。子どもたちは、できたことを再確認したり、困ったことを伝えて友だちの考えを聞いたりとすることで、次の活動への見通しをもつことができた。この取組を継続したことで、子どもたちの話し合いをしようとする意欲が向上した。



【幼:考えを伝え合う】



【小:発表を聞いて話し合う】

(3) 学びのサイクルシートの活用(資料②)

子どもたちの「伝え合い」や「片付け」の場面から、保育・授業を通した育ちのつながりを強く感じたことから、学びのサイクルシートを活用し、3歳から1年生までの姿を可視化できるようにした。

「安心感をもって伝える3歳児」「自分なりの表現で伝える4歳児」「友だちに分かるように伝える5歳児」「友だちと伝え合う1年生」のように、写真の場面をもとに発達段階に応じた子どもの姿、援助や指導の工夫を話し合った。そのことが、架け橋期カリキュラムを見直すことにつながった。

(4) 写真入りカードでの意見交流

子どもたちの姿を写真入りカードで持ち寄り、子どもの姿から教師が見取り、学びの姿へつなげる方策について交流し合う研修を実施した。「自立心」「思考力の芽生え」が見られた場面を捉えてカード作りをすることで、担任が自分の保育・授業を振り返り、「自立心」「思考力の芽生え」を意識して保育・授業に臨むこと、園での育ちが小学校の学びにどのようにつながっているかということを考えることになった。研修に参加できなかった教師には、園と小学校の共有スペースにカードを掲示し、学ぶ手立てとした。



【写真カード 付箋で意見交換】

【写真カードは模造紙にまとめて掲示】

(5) 実践記録シートの作成 (資料③)

実践記録シートを作成することで、活動のどの場面で思考力や自立心の育ちが見られるのかを振り返ることができた。活動内容や課題が分かり、次年度の取組に役立てることができる。シートは、架け橋ボード(幼稚園と小学校の共有スペースに設置し、園の週案や学級通信、加配担当の作る通信等の掲示に使用)に掲示し、付箋で意見交流した。(4)の写真入りカードを模造紙にまとめたものも、この共有スペースに掲示した。



全職員で幼小のつながりを学び合うことができた。

【幼小がいつでも見られる場所に設置】

4 研究の成果と課題

○これまでの経験や育ちのつながりを意識した保育・授業実践の積み重ねにより、子どもに思考力、自立心の高まりが見られるようになった。

○架け橋期カリキュラムの実践、見直しにより、昨年度よりもより子どもの姿に寄り添ったカリキュラムとなった。

○子どもの姿を見取る教師の目と、幼小の連携を意識しながら保育・授業に向かおうとする教師の意識が高まった。



【幼:友だちと相談しながら片付ける】



【小:店の人になりきって会話を進める】

●今年度の取組は、休み時間に短時間の交流をする、共有スペースを生かす等、園と場所が近いという利点を生かしたものが多かった。今後は、校区内の保育園やこども園との連携の在り方を工夫していく必要がある。

5 今後に向けて

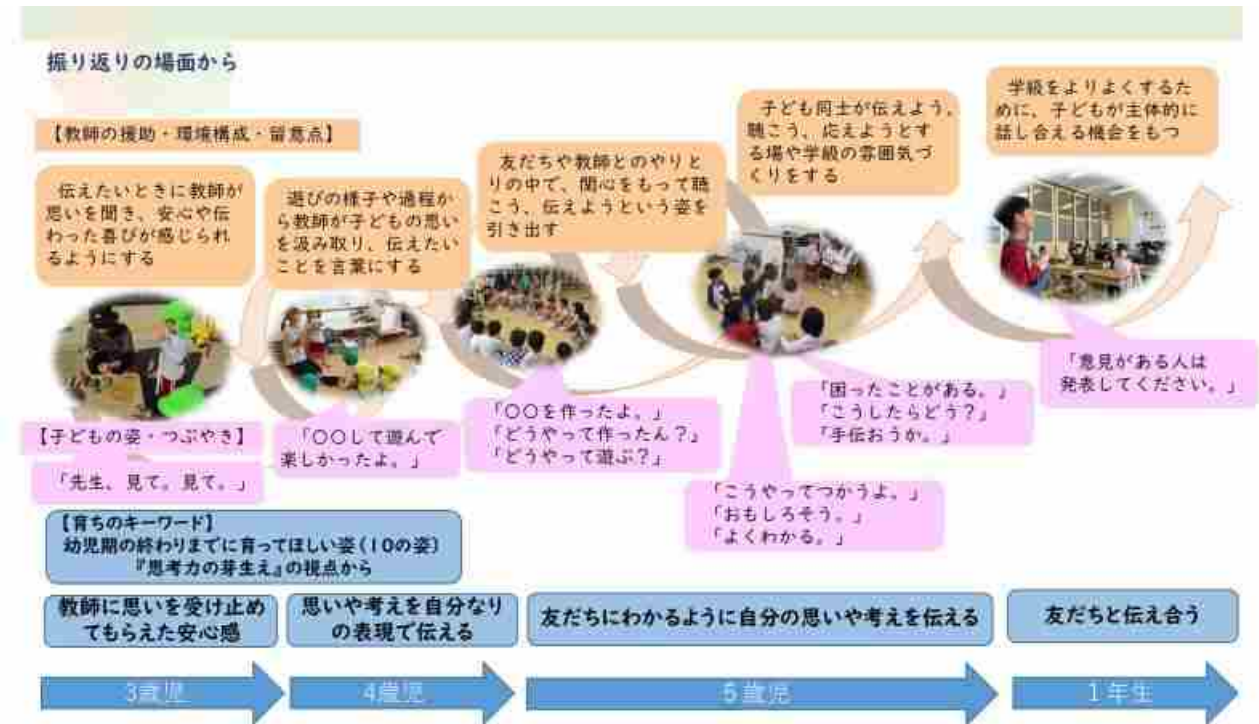
○2年間の取組を校区で共有し、授業・保育参観や語り合う場を通して、互いの教育の理解や保育・授業の改善に努める。

○校区内で作成している架け橋期カリキュラムをもとに、実践・検証し、カリキュラムの改善・発展に努める。

		5 歳 児			第 1 学 年				
時 期(月)		4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3		
期待する子ども像		気付き、考え、主体的に学ぶ							
		自ら考え、行動し、主体的に生活する子ども			課題に向かって意欲的に取り組み、自分なりに考えて粘り強く取り組む子ども				
★今年度の重点★ 幼児期の終わりに 育ってほしい姿	自立心	自分の力を発揮し、進んで活動に取り組む。	自分なりに課題をもち、自分の力でやり遂げる喜びを味わう。	いろいろな活動に主体的に取り組み、充実感を味わう。	これまでの経験を生かしてできることに取り組み、やり遂げる喜びや楽しさを感じる。	課題を自分のこととして受け止め意欲的に取り組み、やり遂げることで自信をもつ。	自分なりに考え、人の意見を聞きながら納得できるまで取り組み、達成感をもつ。		
	思考力の芽生え	・遊びに必要なものを、自分なりに工夫してつくることを楽しむ。 ・友だちと関わる中で、自分なりに試したり工夫したりして遊ぶ。	・身近なものや用具に関わって遊び、特性や仕組みを生かしたり予想したりしながら工夫して遊ぶことを楽しむ。 ・友だちと意見を伝え合う中で、刺激を受けたり、考えたりしながら遊ぶことを楽しむ。	・いろいろな物の性質や仕組みに気付き、考えたり工夫したり予想したりして遊ぶことを楽しむ。 ・友だちと互いのよいところを認め合いながら、自分たちで遊びを進めていく楽しさを味わう。	・園での経験を生かし、試行錯誤を通して考える。 ・友だちと意見を伝え合いながら活動に取り組む。	・課題に向かって積極的に関わり、周囲の人と触れ合いながら考える。 ・友だちとの関わりを通して自分の考えを確認したり、再構築したりする。	・探究心をもって粘り強く取り組み課題を解決しようとする。 ・友だちと共に取り組めるようになったことを振り返り、次の学年でも生かそうとする。		
キーワード		心が動く ・ 試行錯誤 ・ 伝え合う ・ 振り返る							
大切にしたいこと	環境	・生活に身近な様々な素材や用具がある。 ・生活に必要なことが分かりやすい。 ・自分なりの気付きや考えを表す場や機会がある。 ・友だちと関わるきっかけが生まれる場や機会がある。 経験を生かすことができる環境	・生活の流れにゆとりがある。 ・少人数の友だちと遊びをつくり出せる場がある。 ・友だちと相談したり協力したりできる機会や場がある。	・一人ひとりのよさを認め合う機会がある。 ・自分たちで生活をよりよくしようとする機会がある。 ・経験を生かしながら、予想したり試したり確かめたりしたくなるような状況がある。	・園での経験を生かすことで、ワクワクしながら活動に参加できる機会や場をつくる。 ・友だちと意見を伝え合う機会をもつ。	・友だちと考えを伝え合いながら課題に向かい、思いのままに試行錯誤ができる機会をもつ。 ・友だちとの関わりを楽しみながら活動に取り組める機会をもつ。	・自分の思いを自分の選んだ方法で表現し、自分自身の成長を感じることが出来る場をつくる。 ・友だちといっしょに自分たちの成長を喜び、次の学年への期待をもてる機会をもつ。		
	教師の関わり	・安心して自分の思いを出せるように関わる。 ・一人ひとりの気付きや考えを受容する。 経験を引き出す言葉かけ	・共に考えたり工夫したり、失敗や挑戦を楽しむ。 ・友だちに関心をもって伝え合おうとするきっかけをつくる。 ・状況や場の整理をする。	・様々な考えを認めたり、それを言葉にして他の幼児に伝えるようにしたりする。 ・自分たちで行動しようとする気持ちを支える。	・新しい環境で、子どもが園での経験を生かして活動しやすいよう教室環境を整える。(視覚支援、短くて分かりやすい指示、体験を引き出すような言葉かけ) ・担任以外にも困ったら助けてくれる上級生や担任以外の先生たちが学校にいることに気付けるようにする。 (集団での登下校、学校探検、同じクラス、学年での交流、他学年との交流、5歳児との交流、体験を重視した学習)	・子ども同士が交流し合う場を増やす。(学習、休み時間、係や当番の仕事、JRC活動) ・子どもが学級の課題を自分事としてとらえ、自主的に活動を広げていくための振り返りの場をつくる。 ・振り返った後、子どもが思いを試せる場(時間、材料・道具、場所等)を保障する。子どもが考えた活動のルールを大切にする。	・今までの自分を振り返り、できるようになったことを話し合う場の設定。 ・子ども自身に成長した自分を意識させる。家族や上級生のしてくれたことや思いに気付けるように生活を振り返る場をつくる。 ・2年生になる喜び、次年度への期待の気持ちを温かく見守る。		
主な教育課程	遊び ・様々な素材や用具に触れて遊ぶ。(砂、土、水、泥、シャベル、バケツ、樋、空き箱、カップ、段ボール、セロハンテープ、ペン等) ・季節の自然物や生き物に関わって遊ぶ。 ・ルールのある遊びをする。(鬼遊び、リレー、ボール遊び、正月遊び等) ・自分たちで遊びや生活に必要なものを準備したり、場を整えたりしていく。 ・小学生や地域の人と関わって遊ぶ。			入学式、JRCタイム(毎水曜の朝)、JRC集会(集い、たてわり活動) 生活「がっこうだいすきあいうえお」 「いくぞ!がっこうたんけんたい」 「げんきにそだて わたしのはな」 国語「えんぴつとなかよし」「うたにあわせてあいうえお」「こえにだしてよもう」「ききたいな、ともだちのはなし」 ・学校生活の一日の流れが分かる。 安全な登下校、給食の準備・片付けの仕方、ロッカーや机の位置を知る、持ち物の整理整頓 ・学校生活に慣れ、友だちとの関わりを楽しむためのワクワクタイムの設定 ・5歳児との交流 (休み時間、学活、生活科			運動会、校外学習、JRCタイム 生活「あきとなかよし」「ひろがれえがお」 国語「ききたいな、ともだちのはなし」「たのしいな、ことばあそび」「しらせたいな、見せたいな」 ・学習や生活の中で、自分の思いを話したり、友だちの思いを最後まで聞いたりする。友だちの話に関心をもつ。 ・スピーチタイム(話したいことを話す、友だちの話に耳を傾ける)の場を設定する。 ・学級・学年のルールを守って遊ぶ。問題を感じた時は、学級で話し合う場をつくる。(学級会の実施)		六送会、JRCタイム、卒業式 生活「ふゆとなかよし」「もうすぐ2年生」 国語「ききたいな、ともだちのはなし」「たのしいな、ことばあそび」「これはなんてしよう」 ・お世話になった人、これから入学してくる新1年生を意識して自分たちで活動をつくっていく。 ・自分の成長を感じ、2年生への期待をもつ。
予想される活動	生活 ・園生活での約束やきまりの必要性を感じて、守って過ごす。 ・健康で安全な生活の習慣を自ら、進んで行う。			・5歳児との交流 (休み時間、学活、生活科		を中心に適宜実施)			


育ちのつながり（学びのサイクルシートを活用して）


資料②




令和5年度 架け橋期カリキュラム実践記録(守山幼稚園)

資料③-1

	3歳児
時期(月)	8・9・10・11・12
期待する子ども像	気づき、考え、主体的に学ぶ 自ら考え、行動し、主体的に生活する子ども
自立心	① 自分で出来る喜びを感じ、教師と一緒にやってみようとする。
思考力の芽生え	② 様々な素材に触れ、何度もやってみる中で、素材の面白さを感じる。 ③ 教師や同じ場にいる友だちの真似をして遊ぶことを楽しむ。
キーワード	心が動く ・ 試行錯誤 ・ 伝え合う ・ 振り返る
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が見られた子どもの学びの姿	<p>11月中旬</p> <p>近くの友だちが牛乳パックと紙コップを使って電車を作り、教師に知らせている様子を見ていた A 児は牛乳パックを手に取り電車を作り始める。</p> <p>A 児「先生、電車作ろうよ。①」 教師「先生も電車作ろう!どんなのにしようかな。」 A 児「タイヤつける。①」 様々な素材の中からヤクルト容器を2つ選ぶ。 セロハンテープで貼ろうとするがテープの長さが短いことでくっつかない。</p> <p>子どものやってみようという思いを受け止め、教師も一緒にすることで安心感をもってできるようにする。</p> <p>教師の様子を見て、同じように真似たり、テープを長くすることを試したりして気づきにつなげる。</p> <p>教師「くっつかないね。テープが短いのかな。」とテープを長くして教師も同じものを作る。 A 児はテープを少し長めにして貼ろうとするが自分の思うようにくっつかなかったため、貼る場所を変えて試している。②③ A 児「できない。」 手先の不器用さあり、思うようにできず諦めそうになっていた。</p> <p>教師「先生と一緒に貼ろうか」 自分のしたいことができたと感じられるよう、教師が手を添えて一緒にする。</p> <p>教師の支えの基、貼る、外すを繰り返しながら自分の思うようにテープを貼ることができた。② A 児「できた!①②」 教師「電車できたね!」 できたことに共感し、満足感や次への意欲につなげる。</p>  <p>A 児「もう一個する。①②」 できたことを喜び、作ったものを走らせたり、近くの友だちに知らせたりしていた。 次の日もタイヤを紙コップに変えて作るなど自分でやってみようとする姿が見られた。①②</p>
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 教師と一緒に遊びながらモデルを示したり、行為を言葉にしたりすることで、自分なりにやってみようとしていたり、新たな方法に気付いたりすることができる。 子どものしようとしていることを見取り、日々の子どもの様子から個に応じた関わりをすることで、自分でしようとする姿につながる。 子どもにとって扱いやすく、様々な形や大きさの素材があることで自分のしたいイメージに合わせて選んだり、繰り返し試したりすることができる。

	4歳児
時期(月)	8・9・10・11・12
期待する子ども像	気づき、考え、主体的に学ぶ 自ら考え、行動し、主体的に生活する子ども
自立心	① 自分のやりたいことに繰り返し楽しみながら、自分なりの思いやイメージをもって遊ぶ。
思考力の芽生え	② 様々な素材を使って、試したり、考えたりして遊ぶ。 ③ 同じ場にいる友だちや気の合う友だちのしていることを真似たり、刺激を受けたりする中で、自分の遊びに取り入れる。
キーワード	心が動く ・ 試行錯誤 ・ 伝え合う ・ 振り返る
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が見られた子どもの学びの姿	<p>A 児と B 児が自分の遊びを楽しみ中で、一緒に、揃いのものを作って喜んだり、友だちの姿から刺激を受けて自分の遊びに取り入れられたりして遊ぶ姿が見られている。</p>  <p>11月初め</p> <p>同じような大きさの箱やペットボトルのキャップ、カップなどを使って、遊びに使えるレジを作ろうとしていた。①②</p> <p>A 児「B ちゃんも一緒に作ろう。」 B 児「いいよ。②」 友だちと同じイメージをもって遊ぶことを楽しんでいるため、同じ大きさの箱やイメージが再現しやすい素材を十分に用意する。</p> <p>A 児と B 児が箱を選んで持ってきて、箱の底部分と蓋部分を分けて、作り始めた。①②③ A 児「これ(キャップ)は箱の上に付けよう。①②」 B 児「私はレジを押すボタンにしてみよう。①②③」 A 児と B 児と一緒に話をしながら遊んでいた。 子どもが物と関わり、気付いたり、考えたりしたことを表す姿につながるよう見守った。</p> <p>A 児「同じレジ作ったよ。」と、B 児と一緒に作ったものを教師に見せに来た。③ T「ほんとは。お店屋さんで使えるね。」 A 児「ここは私が考えたの。レジでピッてできるの。①②」 T「買うもののバーコードを読み取る場所かな?」 Cupでいいモノ思いついたね。」 友だちとの関わりから考えたり、工夫したりする姿を認めることで、次もやってみようと思える意欲につなげる。</p> <p>2人で顔を見合わせて微笑む。 T「A ちゃんも、B ちゃんもちょっと違う面白そうなのがついているね。①③」 A 児「払うときにはここにピッて携帯ですよ。①」 B 児「お金はここにに入れてね。①」 一人ひとりがイメージを広げてこだわりをもって作る場所を具体的に認めることで、満足感が味わえるようにしていく。</p> <p>T「わあ、いいね。先生もピッて、やってみていい?」 友だちと思いや考えを出し合っている姿を受け止めたり、自分とは違う考えを気付いたりできるように仲立ちとなる。</p> <p>A 児・B 児「いいよ!」 翌日以降も、友だち同士、同じイメージの中で一緒に遊ぶ楽しさを感じて、友だちがやっていることに興味関心をもってしたり、思いを表したりして遊ぶ姿が見られた。 教師も遊びの仲間となって関わることで、子どもたちのできた喜びや楽しさが味わえるように思いを共有する。</p>
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 4歳児は、友だちの刺激から、真似するだけでなく、大きさや長さが少し違うものを用意することで自分なりに工夫する姿につながる。 同じことをしていても、材料の使い方など、それぞれの工夫について、教師が具体的な言葉で認めたり、問いかけたりすることが子どものさらなる意欲につながる。

	5 歳児
時期 (月)	8・9・10
期待する子ども像	気づき、考え、主体的に学ぶ 自ら考え、行動し、主体的に生活する子ども
自立心	①自分なりに課題をもち、自分の力でやり遂げる喜びを味わう。
思考力の芽生え	②身近なものや用具に関わって遊び、特性や仕組みを生かしたり、予想したりしながら、工夫して遊ぶことを楽しむ。 ③友だちと意見を伝え合う中で、刺激を受けたり、考えたりしながら遊ぶことを楽しむ。
キーワード	心が動く ・ 試行錯誤 ・ 伝え合う ・ 振り返る
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が見られた子どもの学びの姿	<p>9月中旬</p> <p>オペレッタを楽しんでいる。 A児はカブトムシが好きで、いつもその表現を楽しんでいる。 保育室で遊んでいる際に、ダンボールを使ってカブトムシの角を作る。 A児「先生見て!カブトの角できた!①②」 教師「ほんまや!ダンボールで作ったんやね、かっこいいカブトに見えるわ。」 A児「そうやる。のしのしズンズン…(カブトムシの動きを見せる)」 教師「強そうなカブトムシやね!」 A児「そうだ、くぬぎも作ろう。①」 教師「ほんまや、カブトムシの好きなくぬぎの木があるとカブトムシが喜びそうやね。」 A児「うーん、でもどうやって作ろうかな。」 教師「木だから、長い棒みたいなのがいるかな。」 A児「うん。」 A児と教師が材料を探していると、B児がやってくる。 B児「何してんの?」 A児「くぬぎの木を作るねん。」 B児「僕もやりたい!③」 A児「いいよ。」 B児「くぬぎの木やったら、葉っぱもいるな、なんか緑のやつないかな。①②」しばらく探す。 A児と教師が筒を選び組み合わせようとしていたところ、B児が緑のポリ袋を持ってくる。 B児「これでどう?」 A児「ほんまや、葉っぱみたい。③」 教師「これが木の幹で、これが葉っぱってことやね。」 A児「ほんまや、できそう!①②③」その後は二人で作り進める。</p> <p>本児がやりたいことに向かって取り組んだ姿を十分に認め、満足感や自信につなげる。</p> <p>本児のイメージを共有し、共に楽しむことで、満足感につなげたり、新たな意欲につなげたりしていく。</p> <p>本児のやりたいという気持ちに共感し、目的に向かって進もうとする姿を支える。</p> <p>具体的なイメージを引き出す質問をすることで、本児自身がイメージを具体的に引き出すきっかけとする。</p> <p>材料を見ることで具体的にイメージがもてるようにする。</p> <p>2人のイメージを言葉にして共有するきっかけとすることで、共に作っていくこととする姿につなげていく。</p> 
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> イメージを具体化したり、選ぶものを焦点化したりする教師の関わりがあることで、イメージをもって選んだり考えたりする姿につながった。 友だちに関心をもって関わろうとする姿がある。そこへ教師の関わりがあることで、一緒に一つのものを作ろうとする姿につながった。

	5 歳児
時期 (月)	11・12
期待する子ども像	気づき、考え、主体的に学ぶ 自ら考え、行動し、主体的に生活する子ども
自立心	①自分なりに課題をもち、自分の力でやり遂げる喜びを味わう。
思考力の芽生え	②身近なものや用具に関わって遊び、特性や仕組みを生かしたり、予想したりしながら、工夫して遊ぶことを楽しむ。 ③友だちと意見を伝え合う中で、刺激を受けたり、考えたりしながら遊ぶことを楽しむ。
キーワード	心が動く ・ 試行錯誤 ・ 伝え合う ・ 振り返る
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が見られた子どもの学びの姿	<p>11月上旬</p> <p>アイス作りから、アイスクリーム屋さんの店構えを作り始めた。その中で、長い芯を支柱にしてカーテンを作ろうと、スズランテープを使って作るが、長い芯が立たず、何日も養生テープの貼り方を変えて試していた。 A児「どうやったら立つのかな?①」 教師「芯と養生テープだけで立つのかな?何かいい考えがないかな。」 B児「何か使う?②③」 A児「箱を使うのはどうかな?②③」 B児「一回やってみよう!①②③」 芯の先が入る大きさの箱を選んで持ってきて、箱の中に芯を入れて、養生テープで付ける。 B児「すぐに倒れてくる。どうしたらいいかな?②③」 C児「どうしたの?③」 B児「これを立たせたいけど、立たへんねん。③」 C児「なんか、周りに置いたら?②③」 B児「箱を置いてみたけど、無理やった。」 教師「そっかあ。じゃあ、他に何か使えそうなものはあるのかな?」 B児「今日のお話タイムで聞いてみる?③」 教師「わかった。じゃあ、今日は片付けて、みんなに聞いてみよう」片付けをして、話し合いをする。 話し合いの時間 B児「カーテンを立たせたいけど、立たないから、どうしたらいいかな?③」 教師「今日もアイスクリーム屋さんで考えたことを試してみただよね」 A児「箱を使ってやってみたけど、うまくいかなかった。」 教師「どうしたらいいかいい方法知っている人いるかな?」 D児「重いもので支えたら?石とか?砂?②③」 E児「ドングリとかは?あと、水?③」 教師「重いものだといいの?」 D児「重い動きにくいから倒れないかなって。②」 教師「なるほどね。重いものを芯の周りに置くと、芯が倒れにくいかなってこと?今、友だちの考えを聞いてみてどうだろう?明日、アイスクリーム屋さんのカーテン、立てられそうかな?」 B児「うん!明日やってみる!」 翌日から、カーテンの支柱が立つように、どんぐりを箱に入れたり、ペットボトルに水を入れたり、ペットボトルの本数を変えたり①②③して何度も試して遊ぶ。</p> <p>子どもが困っていることを同じ場にいる友だちとも共有することで、より考えが広がったり、自分なりの考えを広げたりするきっかけになっただよ。</p> <p>いろいろな友だちの考えを聞いて、刺激を受けたり、自分なりの考えを広げたりするきっかけになっただよ。</p> <p>友だちが考えていることに興味をもつて一緒に考えようとする姿につなげる。</p> <p>重いものが支えになることに気づき、自分の遊びに生かそうとする姿につなげる。</p>
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが遊び仲間と考えや気づきを伝え合うために、教師が仲立ちし、自分の思いを伝えられる雰囲気作りをしたり、目的を再度確認したりすることで、同じ目的に向かって友だちと考えを伝え合い試したり、工夫したりする姿につながる。 これまでの振り返りの時間のもち方が、友だちに聞いてみようと思える場であったことで、子どもたちから話し合いの時間に友だちに聞いてみようとする姿につながった。

令和5年度 架け橋期カリキュラム実践記録(守山小学校)

第 1 学 年	
時 期 (月)	9 ・ 10
期待する子ども像	気付き、考え、主体的に学ぶ 課題に向かって意欲的に取り組み、 自分なりに考えて粘り強く取り組む子ども
自立心	① 課題を自分のこととして受け止め意欲的に取り組み、やり遂げることで自信をもつ。
思考力の芽生え	② 課題に向かって積極的に関わり、周囲の人と触れ合いながら考える。 ③ 友だちとの関わりを通して自分の考えを確認したり、再構築したりする。
キーワード	心が動く ・ 試行錯誤 ・ 伝え合う ・ 振り返る
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が見られた子どもの学びの姿	<p>【生活「ひろがれえがお」園や家庭での経験を学習活動につなげる】</p> <p>○「おうちの人を笑顔にする」方法について出し合うことで、家には様々な仕事があることに気付くことができた。自分がしたことのない仕事を体験している友だちがいることを知る場にもなり、「自分もやってみたい」「どの仕事に挑戦しようか」と、これから取り組む活動への意欲をもてた。①</p> <p>○実際に家の仕事を手伝い、おしごとプリントに家族からコメントをもらったり、自分が仕事をした時の家族の表情や言葉を出し合ったりすることで、「家族の笑顔」について再度考える場が生まれた。②③</p> <p>【家族の笑顔について話し合う】</p> <p>○家の仕事を体験して分かったことや感じたことの発表準備では、自分の思いや考えを伝える方法を友だちと話し合いながら活動を進められた。発表したいことがうまく伝わるような原稿作りや道具作りなどに取り組む姿が見られた。②③</p> <p>どうやって発表しよう。みんなはどうするの？</p> <p>○発表原稿や作ったものを使って練習を繰り返した。グループの友だちと見合いアドバイスし合うことで、原稿なしでも話せるようになったり、道具を使った実演の見せ方を工夫したり、個々に工夫ができた。②③</p> <p>ここがこわれやすいんだよね。 手伝うよ。ここ持ってたらいい？ 家で包丁の使い方教えてもらった。 前からだとよく見える。</p> <p>【発表の準備と練習】</p> <p>○友だちの発表を聞き、次にやってみたい仕事を見つけることができた。 ○自分にできることがたくさんあることに気付くことができた。① ○ただ発表するだけでなく質問タイムを設けることで、仕事のやり方について考えられた。②③ ○家族への感謝を感じる事ができた。</p>    
振り返り	・家で自主的に家族を手伝ったり、学校の体操服をきれいにたたむ、掃除をがんばったりするなど、自分の身の回りを振り返る姿が見られるようになった。 ・この学習を普段の生活や家庭での仕事への姿勢につなげ、継続していくために、折に触れて子どもの話を聞いたり励ましの言葉をかけたりしていきたい。

第 1 学 年	
時 期 (月)	10 ・ 11
期待する子ども像	気付き、考え、主体的に学ぶ 課題に向かって意欲的に取り組み、 自分なりに考えて粘り強く取り組む子ども
自立心	① 課題を自分のこととして受け止め意欲的に取り組み、やり遂げることで自信をもつ。
思考力の芽生え	② 課題に向かって積極的に関わり、周囲の人と触れ合いながら考える。 ③ 友だちとの関わりを通して自分の考えを確認したり、再構築したりする。
キーワード	心が動く ・ 試行錯誤 ・ 伝え合う ・ 振り返る
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が見られた子どもの学びの姿	<p>【国語「すきなものなあに」】</p> <p>○話型を示すことで、伝えたいことを理由と合わせて話すことができるようになってきた。①</p> <p>○ペアやグループなど、話し合いの形態を工夫することで、相手にわかりやすく伝えられるようになってきた。②③</p> <p>【朝のスピーチ】</p> <p>○「すきなものなあに」で学習したことを思い起こす機会をもつことで、伝えたいことを文章で表現することができるようになってきた。①</p> <p>○継続的に行うことで、質問や感想を伝えることができるようになってきている。</p> <p>○質問タイムを設けることで、相手の話に関心をもち、話をつなぐことができた。②③</p> <p>【動画視聴とペアトーク】</p> <p>○話し方・聞き方のよくない例とよい例、改善ポイントなどをまとめた動画を視聴することで、子どもたち自身が客観的に考える機会をもつことができた。①</p> <p>○動画を視聴した直後に同じテーマについてペアで話し合うことで、気をつけるポイントを具体的に意識して話し合うことができた。②③</p> <p>○声の大きさや目線など、ポイントを示すことで、相手にわかりやすく伝えることができるようになってきた。①</p>  <p>【すきなものを伝え合う】</p>  <p>【質問タイムで話をつなぐ】</p>  <p>【動画をみてペアトーク】</p>
振り返り	・自分の思いをもって話すことはできてきている。今後は、話の内容に関心をもち、大切なことを落とさないように気を付けて聞けるようになっていきたい。 ・「話すこと・聞くこと」の学習は、継続的に行うことが大切なので、日々の実践でも繰り返し取り入れたい。

研究主題：自分の思いや考えを表現できる環境づくりや支援の在り方

～「育ち合う」子どもから「学び合う」子どもへ～

1 主題に関わる2年目の研究目的

研究1年目は、「保育を知る」「学びを知る」ことに特化し、互いのよさを感じることができた。また、保幼職員と小学校職員が繋がるきっかけとなった。

研究2年目は、1年目の研究成果を生かし、繋がりを活かす環境作りや違いを滑らかにする支援の在り方を検討し、実践することを目的に研究を深めた。また、研究校園の責務として、日野町内全体で保幼小接続がより一層進むよう、情報共有や繋がるきっかけづくりを積極的に行うこととした。

2 幼児教育と小学校教育をつなぐ取組や架け橋期のカリキュラムに関する取組

(1)実施した研修会等

実施日	対象	内容等
4月27日	全管理職、1年・5歳児担任	・保幼小接続推進委員会（顔合わせ、打合せ）
5月12日	小管理職、1年・5歳児担任	・保幼小連絡協議会（1年授業公開、情報共有）
5月25日	1年・2年・5歳児	・授業体験会①（体育授業体験、指導法検討）
5月30日	小全職員、保幼職員（希望）	・合同研修会①（2年授業参観、研究会）
7月12日	小幼職員（希望）、保全職員	・合同研修会②（こばと園4歳児保育参観、研究会）
7月20日	全管理職、1年・5歳児担任	・架け橋期カリキュラム編成委員会①（1学期振り返り）
8月4日	町内全校園職員（希望）	・合同研修会③（大学教授の講話、グループワーク）
9月14日	1年・5歳児	・授業体験会②（図工授業体験、指導法検討）
10月3日	全管理職、1年・5歳児担任	・合同研修会④（指導案検討会）
10月12日	全管理職、1年・5歳児担任	・合同研修会⑤（指導案検討会・最終打合せ）
10月26日	小幼職員（希望）、保全職員	・合同研修会⑥（こばと園2歳児保育参観、研究会）
11月2日	小幼職員（希望）、幼全職員	・合同研修会⑦（南比都佐幼稚園3・4歳児保育参観）
11月9日	町内全校園職員（希望）	・公開研修会
11月21日	小幼職員（希望）、保全職員	・合同研修会⑧（こばと園3歳児保育参観、研究会）
11月30日	3年・5歳児	・学林交流会（自然遊び）
12月22日	全管理職、1年・5歳児担任	・架け橋期カリキュラム編成委員会（2学期振り返り）
1月23日	全管理職、1年・5歳児担任	・架け橋期カリキュラム編成委員会（3学期の見通し等）
1月31日	小全職員、保幼職員（希望）	・合同研修会⑧（1年授業参観、研究会）
2月20日	1年・5歳児	・授業体験会③（算数）
3月8日	全管理職、1年・5歳児担任	・保幼小接続推進委員会②（まとめ・次年度に向けて）
3月未定	小管理職、1年・5歳児担任	・保幼小連絡協議会（新1年生について）
年間	小全職員	・こばと園園内研究の保育参観・研究会参加
年間	小全職員	・南比都佐幼稚園への保育参加

(2)加配教員の取組

◆保育への参画での気付き

保幼へ週に1日ずつ勤務し、5歳児クラスを中心に保育に参画することで、小学校の学習へどのように繋げていくのかを模索した。

中でも、振り返りは「言葉による伝え合い」「協同性」との関連



が強く、重点を置いて研究を深めた。保幼では発達の段階や目的に合わせて振り返りの形を変えて行うことが多く、子どもの発言には問い直しをしながら明日の保育へ繋げていく。夏に保育園で0歳～4歳児の保育に参画する機会があったが、3歳児から振り返りを行っていることや、今日の感想だけにとどまっていなかったことが分かった。そうして積み上げられた振り返りの方法を授業の中でも継続していけば、子どもの主体的・対話的で深い学びに繋がると感じた。さらに中・高学年の書く振り返りにおいても、深まりを見られるのではと考える。

また、時間の使い方についての学びも大きい。子どもの様子を見ながら、臨機応変に活動や環境を変え、子どもの育ちが発展していくように設定している。小学校では45分の枠組みをどうしても意識してしまうところがあるが、大枠で「今日やること」を決める程度で単元構成や1日の流れを計画することも必要だと考える。次年度より実施する年間指導計画は、単元同士の関連や子どもの発達などにも意識を向けながら作成していきたい。（別添資料②参照）

◆保育の準備、打合せへの参加での気付き

園の先生方と話したり、保育の様子を見たりする中で、目指す子どもの姿が見られるよう、先生方が環境の構成を子どもの思考の流れをもとに熟考する姿が見られた。先生が準備するものもあれば、子どもと相談しながら準備するものもあり、子どもたちは保育者に導かれる中で自己決定していく、という絶妙なバランスで保育が繰り広げられていることが分かった。保育室の環境の構成によって子どもの遊びが急に盛り上がった場面を何度か目にした。いつも保育者同士が、子どもの思考をもとにした環境について対話しているからであると感じた。

◆架け橋期カリキュラムの実施・検証・改善（別添資料①参照）

年度当初から架け橋期カリキュラムをもとに保育・授業を進めることが出来たので、互いの経験や思考の流れ、学びのつながりを意識して実践することができた。検証は、学期ごとに保幼小で集まって育ちを共有し、次の学期ではどのような育ちを目指していくのかについて話し合った。保幼の育ちを踏まえて1年生の育ちを考える機会となった。改善については、振り返りにおける文言を細分化した方がより発達段階が分かりやすく、担任や担当者が変わっても引き継げると考えた。（別添資料③参照）



3 実践事例

(1)「互いに知る」

- ・研究会の参加や保育参加

互いの子どもの見方や捉え方、ねらいを理解することができた。また、アドバイスを共に考えることが、授業改善や保育改善に繋がった。

(2)「互いに親しむ」

- ・合同運動会や5・5交流

園児が小学生の活動を見て園の遊びでまねっこをしたり、小学生が園児を楽しませるためにどうするか計画・実施したりすることが、思考の深まりや達成感につながった。

- ・図書室の利用

利用する曜日だけを決め、幼稚園の都合で来室できるようにしたことで、無理なく実施することができた。また、親しみが生まれ、園児が安心できる場所の一つとなった。

- ・職員交流会

職員の距離が縮まり、会議等場の設定が無くても電話などでの情報共有が気軽にできるようになった。



- ・保育や授業のサポート

借りたいものや教えてほしいこと等を伝え合うなど、保育や授業を互いにサポートし合ったことが、子どもの学びの深まりに繋がった。職員としても助けられる存在が増えたことは非常にありがたく感じた。また、交流等を通して生まれた子ども同士の繋がりが、入学後の安心に繋がった。



(3)「繋がりをを感じる」

- ・授業体験会

昨年度同様続けて実施した。実施の際には、保幼の先生と相談しながら授業内容を決めるなどして、互いの学びの機会となるよう心がけた。振り返りカードを使うことで、互いの学びやアドバイスなどをすぐ交流することができた。

- ・加配教諭通信『つながる～NO！ゼロスタート』

加配教諭が気付いた保育の工夫をもとに、小学校への繋がりのや、違いを紹介している。保育をもとに「小学校では…」を掲載し、互いを意識しながら保育・授業ができるようにした。

(4)町全体へ広げる取組

- ・夏の合同研修会

夏の合同研修会は、校区だけでなく、対象を町内全体に拡大して行った。主に5歳児担任や1年生担任、管理職などを中心に、約35名が集まった。大学教授より園児の様子をもとに保幼小連携に必要なことについて講話を聴いた後、校区ごとにグループワークを行った。グループワークでは「協同性」「言葉による伝え合い」に焦点を当て、それぞれの実態と、共通して取り組めることや困っていること等を話し合った。同じ校区の先生同士がじっくり話せるよい機会となった。



- ・町内の研究保育への参加

他園の研究会に参加することで、小学校との繋がりの等について、町内の多くの先生と話す機会となった。

- ・日野っ子育て「連携」推進委員会と5歳児部会の同時開催

各校区で架け橋期カリキュラムの作成をするため、各々の会議を合同で開催した。各校区で相談する機会を設定したことで、保幼小連携について一緒に考えるきっかけとなった。

4 研究の成果

昨年度の課題を踏まえ、小学校の時間軸を滑らかにし、子どもの思考の流れに沿って学習を進めたり、課題解決型学習を1年生から進めたりすることができた。また、交流や情報を共有する機会を多くもつことで、子どもの経験が広がり、保育の幅を広げることができた。よりよい育ちと学びに向けて共に学び合おうとする教師の意識の変化が最大の成果となった。

今年度は、町全体で保幼小連携について考える機会が設定できた。そこで、各校区での架け橋期カリキュラムを作成することについて、動き出すことが出来た。校区によって子どもの実態は違う中で、じっくり子どもの姿を考えながら、目指す子どもの姿について校区ごとに語り合えたことは、今後の町全体での保幼小接続推進の基盤となる。

5 課題と今後に向けて

今後は、加配教員がいなくても繋がりが合える町が必要である。例えば、子どもと直接接している教員が直接保育や授業を参観できる機会の確保等、学び合う環境を整えることが必要である。また、小中連携についても同様に考えていくことで、「命が宿ってから義務教育終了までの16年プロジェクト」を進めていけるのではないかと考える。今後は、今年度作成した各校区の架け橋期カリキュラムの検証や改善の機会を設けるよう働きかけ、カリキュラムを作った終わるのではない、持続可能な接続を目指す。

別添資料① 滋賀県版「架け橋期カリキュラム」共通シート

【南比都佐小学校区】校名 (南比都佐小学校・南比都佐幼稚園・こぼと園)

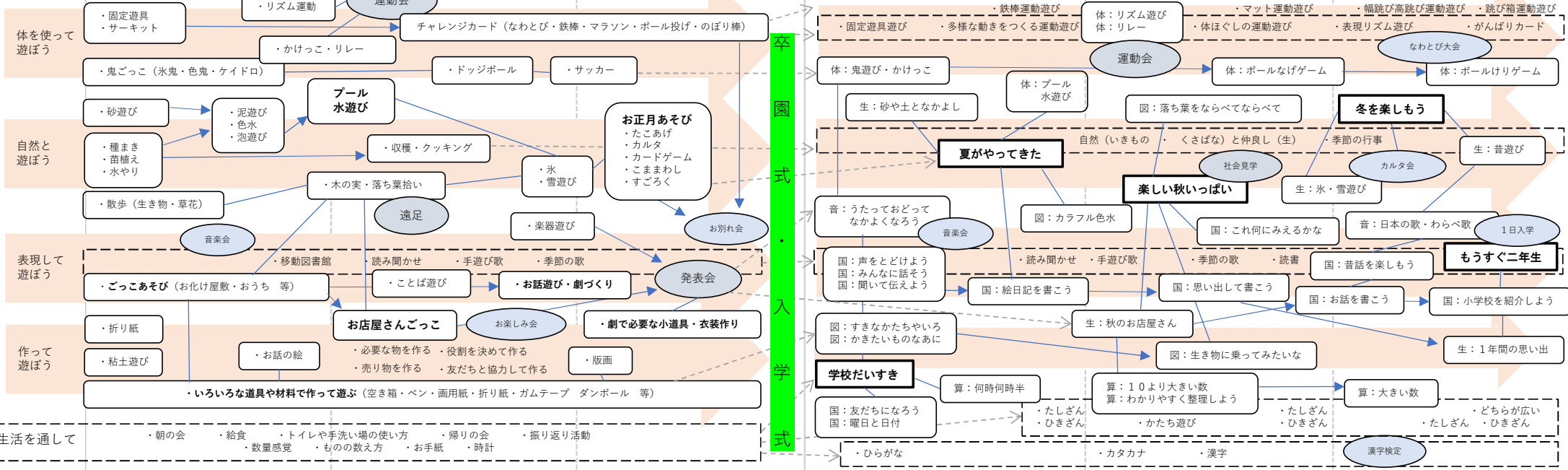
		5歳児			第1学年		
時期		4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3
期待する子ども像		自分の思いや考えを言葉で表現できる子ども					
協同性	友だちと一緒に活動することを楽しむ。	共通の目的に向かって、友だちと一緒に活動を進めようとする。	共通の目的に向かって、協力して、やり遂げようとする。	自分の力を発揮し、楽しみながら新しい友だちと学習する。	ゴールに向かって、友だちと協力しながら学習する。	友だちと話し合いながら試行錯誤し、工夫して学習する。	
言葉による伝え合い	自分の気持ちを伝えようとする。	自分の思いを伝えたり相手の思いを聞いたりして、遊びを進めようとする	考えや思いを言葉で伝えようとしたり相手の思いに気付いたりする。	新たな友だち関係の中でも自分の思いや考えを言葉で伝えようとする。	友だちと話し合いながら、学びを進めていく。	友だちと話し合う中で、いろいろな考えに出会い、学びを深める。	
ふりかえり	・伝えたいことを伝える時間を確保 ・得意不得意を把握	・グループで話す機会を設定 ・友だちの話聞いて反応する経験	・話題について全体で話し合う ・聞く姿勢や聞く姿勢を意識	・マークや言葉を使ってみんなが表現 ・安心できる人間関係や環境づくり	・視点を意識したふりかえり ・深める返し発問 → 短文を書く。	・視点を選んで書く。 ・交流する機会	
環境単元	・安心安定して生活できる環境づくり ・遊びに見通しがもてる環境づくり (可視化・本の精選・掲示物) ・友だちと思いや考えを共有できる時間や場の設定	・やりたいことが実現できる材料や道具の準備		・学習時間を柔軟に設定 ・学習することに主体性や達成感をもてる導入やゴールの設定 ・学習計画の掲示・並行読書 ・既習事項や成果物の掲示 ・園でやったことを振り返る→それを発展させる単元構成 ・ペアワークやグループワークの実施			
先生の関わり	・一人一人が安心して自分の思いを出せるようにする。	・子ども同士が繋がり合えるように仲立ちに入る。	・一人一人の良さや成長を認め、充実感をもって生活できるようにする。	・わからないと言える学級で安心して学習できるようにする。 ・授業形態を工夫して子どもたちが繋がり合える場の設定をする。 ・一人一人の良さや頑張りを認める声かけ→認め合える雰囲気作りを			
キーワード							

幼稚園の終わりにまで

大切にしたいこと

主な教育課程・予想される活動

安心して自分が出せる環境 繋がる喜びを感じ合える仲間 自分を認められる関わり



令和6年度 南比都佐小学校 スタートカリキュラム 週案 NO.1

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目			
月日	4月8日	4月9日	4月10日	4月11日	4月12日			
曜日	月	火	水	木	金			
登校後			朝の用意	朝の用意	朝の用意			
朝の会								
朝学習								
1		入学式	国	朝の会 ・よみきかせ ・季節のうた ・トイレ名人	国	朝の会 ・よみきかせ ・季節のうた	国	朝の会 ・よみきかせ ・季節のうた ・歌って仲良し
			生		生		生	
			学	傳りの用意 傳りの会	学	身体測定	国	書道遊び ・とんとんとことん ・声を響けよう ・伝書ゲーム ・しりとり
2			生	みんな遊び	生		国	
			中休み	どきどきわくわく1年生 みんなとなかよくなりたいな				
			3	字が児童会	国	みんなにはなそう	国	みんなにはなそう
4			国	自己紹介 ・よろしくね ・好きなものをかこう	国	練習ざ	国	よろしくね
			生		生	給食名人	生	給食名人
			給食	・トイレ・手洗い・机の上の準備・三角巾 → 消毒 → 自分で取りに来る → へらす → ふやす → いただきます				
		中休み	みんなで教室の掃除					
5			国	図書館 オリエンテーション	道	楽しい学校 なっているのかな	国	
			国		国	ふりかえり	国	
			傳りの会		傳りの会		傳りの会	

令和6年度 南比都佐小学校 スタートカリキュラム 週案 NO.2

	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目			
月日	4月15日	4月16日	4月17日	4月18日	4月19日			
曜日	月	火	水	木	金			
登校後		朝の用意	朝の用意	朝の用意	朝の用意			
朝の会	朝の用意							
朝学習		よみきかせ		よみきかせ	よみきかせ			
1	国	朝の会 ・季節のうた ・歌って仲良し ・自己紹介	国	朝の会 ・季節のうた ・とんとんとことん ・伝書ゲーム ・しりとり ・自己紹介	国	朝の会 ・季節のうた ・歌って仲良し ・自己紹介 ・とんとんとことん	国	朝の会 ・季節のうた ・とんとんとことん ・伝書ゲーム ・自己紹介
		生		生		生		
		体	固定遊具あそび ・がんばりカード	生	学校探検	算	10までのかず ・もうじゅうがり ・1～5	算
2			生		生		算	
			中休み	自己紹介をしよう				
			3	みんなに話そう	国	みんなに話そう	国	みんなにはなそう
3			国	みんなに話そう	国	みんなに話そう	国	みんなにはなそう
			生	練習ざ	国	ひらがな	国	あめですよ
			生	練習ざ	生	学校探検	算	なおよし
4			生		生		算	
			給食	・トイレ・手洗い・机の上の準備・三角巾 → 消毒 → 自分で取りに来る → へらす → ふやす → いただきます				
			中休み	自己紹介をしよう				
		中休み	みんなで教室の掃除					
5			国	ふりかえり	算	数をかぞえよう	道	ありがとう
			国		算		道	
			国	練習ざ	学	ふりかえり	学	ふりかえり
		傳りの会		傳りの会		傳りの会		傳りの会

令和6年度 南比都佐小学校 スタートカリキュラム 週案 NO.3

		11日目	12日目	13日目	14日目	15日目	
月日		4月22日	4月23日	4月24日	4月25日	4月26日	
曜日		月	火	水	木	金	
登校後		朝の用意		朝の用意		朝の用意	
朝の会		朝の用意		朝の用意		朝の用意	
新学期		よみきかせ		よみきかせ		よみきかせ	
1	国	朝の会 ・季節のうた ・拍を感じよう	朝の会 ・季節のうた ・拍を感じよう	朝の会 ・季節のうた ・拍を感じよう	朝の会 ・季節のうた ・拍を感じよう	朝の会 ・季節のうた ・拍を感じよう ・けんぱんハーモニカ	
	生		あめですよ	なんばんめ	どこにいますか		
2	算	かずをさがそう ・学校探検 ・ものの数え方				大きさを比べ ・ならびかた	
	算		ひらがな				
中休み							
3	道	あいさつのある いちにち		ちよちよき かざり ・おりがみ		クイズ インタビューを とろう	
	道	あめですよ	学校にいる人と なかよくなるう ・みんなにはなそ う		学校の周りに なにがあるのかな		
4	国	ひらがな		ひらがな		ひらがな	
	国						
生	給食名人	給食名人	給食名人	給食名人	給食名人	給食名人	
給食 ・トイレ・手洗い・机の上の準備・三角巾 → 消毒 → 自分で取りに来る → へらす → ふやす → いただきます							
昼休み							
掃除 みんなで教室の掃除							
5	体	固定遊具遊び ・がんばりカード	ひといかず	校庭を 見に行こう ・みんなにはなそ う	・ひらがな ・図書室	固定遊具遊び ・がんばりカード	
	体						
朝の会							

令和6年度 南比都佐小学校 スタートカリキュラム 週案 NO.4

		16日目	17日目	18日目	19日目		
月日		4月29日	4月30日	5月1日	5月2日	5月3日	
曜日		月	火	水	木	金	
登校後		朝の用意		朝の用意		朝の用意	
朝の会		朝の用意		朝の用意		朝の用意	
新学期		よみきかせ		よみきかせ		よみきかせ	
1	国	朝の会 ・季節のうた ・拍を感じよう ・鍵盤ハーモニカ	朝の会 ・季節のうた ・拍を感じよう ・鍵盤ハーモニカ	朝の会 ・季節のうた ・拍を感じよう ・鍵盤ハーモニカ	朝の会 ・季節のうた ・拍を感じよう ・鍵盤ハーモニカ		
	生						
2	算	いくつといくつ	いくつといくつ	いくつといくつ	いくつといくつ		
	算						
中休み							
3	国	とんことん	花を育てよう	なにきしているの かな			
	国		ねんど				
4	国	ひらがな	ひらがな	ひらがな			
	国						
生	給食名人	給食名人	給食名人	給食名人			
給食 ・トイレ・手洗い・机の上の準備・三角巾 → 消毒 → 自分で取りに来る → へらす → ふやす							
昼休み							
掃除 みんなで教室の掃除							
5	学	学級会を 開こう	固定遊具あそび ・頑張りのカード	図書室			
	学						
朝の会							

昭和の日

憲法記念日

5 歳児

時期 (月)	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3
--------	---------	--------------	-------

期待する子ども像 自分の思いや考えを言葉で表現できる子ども ～友だちと一緒に学ぼう～

しい姿	幼見期の終わりまで	協同性	友だちと一緒に活動することを楽しむ。	共通の目的に向かって、友だちと一緒に活動を進めようとする。	共通の目的に向かって、協力して、やり遂げようとする。
		言葉による伝え合い	自分の気持ちを伝えようとする。	自分の思いを伝えたり相手の思いを聞いたりして、遊びを進めようとする。	考えや思いを言葉で伝えようとしたり相手の思いに気付いたりする。

幼見期の終わりまで子どもの学びの姿が見られた

「ぜんぶおにごっこ」
 ・ A児が氷鬼、ケイドロ、増え鬼のルールを取り入れた鬼ごっこをしたい、みんなに教えたいと保育者に伝える。A児がルールを説明する。ルールがたくさんあり、「よく分からへん。」と最初からあまり乗り気でない子がいる。遊びが始まるがA児から「違う！○○ちゃんは鬼になって！」と指摘が入る。次々に「もうやめる。」と遊ぶ子が減っていく。途中で遊びをやめないというルールがあるのでA児は「なんでやめるの？」と怒れてくる。中には優しくA児の思いを汲み取ろうとする子もいるが、楽しく遊べる雰囲気ではなく、「ぜんぶおにごっこ」は終了してしまっ。A児はその後も「ぜんぶおにごっこ」をしたい気持ちはあるが、「みんなが僕と遊んでくれない。」とすねて保育者だけを誘おうとする。保育者が他児に本児の思いを伝えると「遊びたくないんじゃないねんあ。」とつぶやいていた。それぞれの思いがあり、思いを伝えたいが十分に伝わらず、「遊びたくないわけではない」といった複雑な思いを伝えるために、保育者の仲立ちはまだ必要であると感じる。

「砂場で滑り台」
 ・ 砂場で滑り台をつくる事になる。自分達が本当に滑れるようにするにはどうすればいいか考えながら遊びを進めている。「砂のままでは滑れへん。」「なにか敷く?」「段ボール持ってこよう。」段ボールを砂山の斜面に敷いて滑ってみるが、思うように滑らない。「水があると滑るんちゃう?」「プールの滑り台みたいなのやつ。」「でも段ボールやからフニャフニャになるで。」「じゃあちょっとだけ濡らせばいいんや!」子ども達は自分の手を濡らし、手を振る事で段ボールを少しだけ濡らす事を試みる。「あんまり滑らへんな。」「ツルツルじゃないとだめや。」「(樋)これは?」「小さすぎるやろ。」「二個並べて立って滑る?」今まで経験した事、使った物を使い、自分達がやりたい遊びを実現させようとたくさんのアイデアが出ていた。



「Aちゃんは どう思う?」
 ・ 夏祭りにお客さんと呼ぶため当日の作戦会議をする。欠席が5名いて魚屋が1人になる。このままでは大変だと保育者の方から呼びかける。「誰かが手伝いに行く。」「魚屋さんをやめてAちゃんがどこかの店を手伝う。」の2つの意見が出る。A児は「どっちでもいい。」と一人になって少し不安そうな様子。「じゃあ魚屋さんになる」と数名の手が上がる。T「ありがとう。でも魚屋さんが多くなっちゃうね。」B児「何人(手伝いに)動く?」「1、2、3...。(みんなの数を数える)」「こっちが少なすぎる。」「○○ちゃんに代わるの譲ってあげろ。」「このお店から1人、このお店から1人行けばちょうどいいくらい。」「誰が行く?」また数名の手が挙がる。「Aちゃんに選んでもらう。」A児「...。」T「Aちゃんちょっと困ってるかも。」「そうやな。じゃんけんしよう。」ピンチヒッターの2名が決まりA児も表情が和らぐ。店のルールを説明して準備にかかる。「これでお客さん呼べるな。」「3クラスもくるから頑張ろう。」



「最後じゃなかった」
 ・ 運動会への取り組みでリレーをする。練習から負けが続いているチームが保育者と一緒に作戦会議をする。「ずっと3位が嫌や。」T「このチームの足が速い人は誰なの?」「○○君、○○ちゃん...。」「順番を替えてみよう。」「速い人をかためる?」「それやと後からがすぐ抜かされそう。」「速い人、遅い人、速い人の順番にしたら?」「遅い人を助けてあげよう。」次のリレーの練習で2位になる。1位ではなかったが「最後じゃなかった!」「作戦会議のおかげや。」とチームのみんな喜んでた。



「チャンピオンはだれ?」
 ・ 増え鬼で最後の一人になった人がチャンピオンとみんなが認識しているが、途中でお茶を飲みに行った人が最後になる事がある。それがずるいと感じた子がみんなと話し合いたいと提案する。A児「チャンピオンはずっと頑張ってた人がなった方がいいと思う。」「でもチャンピオンになりたくてトイレ我慢する人がいるかもよ?」「わざと休憩する人がいる。」「じゃあ(トイレに行ったら)10秒数える?」「早く戻りたくて急ぎすぎる。」「T「じゃあ1回多い方(多数決)で聞いてみよう。」「逃げ続けた人がチャンピオンが少数派。休憩しても最後に残った人がチャンピオンがいいと思う方に多く手が挙がる。しかし、少数派はなかなか納得がいかない。B児「じゃあ誰かがトイレに行ったらみんな一回ストップにしたら?」「いいかも。」「でも休憩だらけになりそうやなあ...。」「T「チャンピオンって一人じゃなくてもいいんじゃない?」C児「ずっと走ってたチャンピオンと休憩ありチャンピオン2人決めよう。」「いーね!!」「あ〜頭いっぱい使ったあ。」「今度このルールでやろうな!」保育者が少しヒントを出す子ども達から案がたくさん出るようになった。長い時間話し合えるようになり、反対意見にも怒らず耳を傾けられるようになっていた。また、保育者が思いつかなかった発想もあり、実のある話し合いが増えてきている。



5 歳児

時 期 (月)	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3
---------	---------	--------------	-------

期待する子ども像 **自分の思いや考えを言葉で表現できる子ども ～友だちと一緒に学ぼう～**

しい姿 までに育 ってほ しい姿 が 見 ら れ た	協同性	友だちと一緒に活動することを楽しむ。	共通の目的に向かって、友だちと一緒に活動を進めようとする。	共通の目的に向かって、協力して、やり遂げようとする。
	言葉による 伝え合い	自分の気持ちを伝えようとする。	自分の思いを伝えたり相手の思いを聞いたりして、遊びを進めようとする。	考えや思いを言葉で伝えようしたり相手の思いに気付いたりする。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が見られた

「何人ずつにする？」
 ・ごっこ遊びのお化け屋敷に3,4歳児を2回招待した後の遊びの振り返りの場面である。A児「お客さんがいっぱいお化け屋敷に入らなくなって楽しかったから、暴れやってお化け屋敷が壊れた。」と困ったことを全体の場で発表する。T「そっか、じゃあどうする？」と聞くと、B児「屋根直す。」A児「僕も修理するわ。」C児「私も一緒にするわ。」とお化け屋敷を修理するという話になる。D児「でもまたお客さんが一気に来やったら壊れちゃうからちょっとずつにしたら？」と意見を伝えると、F児「3人ずつがいい。」E児「5人がいい。」G児「じゃあ4人。」T「何人がいいかいっぱい言ってくれたけど、じゃあ何人にしようか？」と教師の投げかけで何人がいいのか皆で考える。B児「4人とか5人は多いから、3人にしようよ。」と意見を言うと、じゃあそうしようかと全体での共通認識が出来る。



「人数足りないな。どうしよう」
 ・ごっこ遊びのお寿司屋さん「きくくらずし」の遊びの振り返りの場面で、「3,4歳児や職員、小学生にお客さんとして来てもらった。3,4歳児にもう一度来てもらいたい」ということで、話し合っって役割分担をする。お寿司を流す人が3人、案内したりお客さんの対応をする人が2人、レジが1人、ガチャガチャ1人に決まる。繰り返しお客さんに来てもらったことでお寿司を流す人は3～4人、案内したりお客さんの対応をする人は3人、レジ1人、ガチャガチャ1人必要であるというクラスでの共通認識がある。T「お寿司流す人と案内する人その人数で大丈夫？」と教師が聞くと、足りないという意見が多かった。どうしたらいいか皆でしばらく考えて、A児「それで大丈夫じゃない？」という意見があった。他児もよいアイデアが出ず、A児に賛成する。そこで、T「でもこの前話したら、人数少なくて大変だったって話してたから（各役割に○人いる方がいいと）皆でどれだけ人がいるか決めたんじゃなかった？」と意見を出すと、また皆でしばらく考える。B児「あ、いいアイデア思いついた！レジとガチャガチャはお客さんが帰るときにするから、お客さんが食べてる時は他のお仕事手伝ったらいいんじゃない？」とB児がアイデアを出したことで、クラスで共通認識していた人数になり賛成の意見が多く、レジとガチャガチャ担当の子は、お客さんが帰るまで他の役割を手伝うことになった。



「それってアウト？セーフ？」
 ・戸外でルールのある遊びをすることが好きな子どもたち。戸外でドッジボールや鬼ごっこなど好きな遊びを楽しんだ後の遊びの振り返りの場面でのことである。T「今日も外でいっぱい遊んだね。皆にお話ししたいことがある？」と教師が投げかけると、A児「勝って楽しかった。」B児「何回も鬼になっちゃった。」など皆の前で思ったことを発表する子が多い。教師はC児が悔しそうな表情で座っていることに気付く。T「C君も何か友だちに話したいことある？」と聞くと、C児「僕な、嫌やったことがあってん。」T「どうしたの？」C児「鬼ごっこでタッチしたのに、Dちゃんが鬼になってくれなかったん。」と嫌な気持ちを皆に伝える。T「そうやったんや。C君がタッチしたけどDちゃんが鬼にならなかったって言ってたけどそうなの？」とD児に問いかける。D児「服だけにタッチしやったら、タッチはされてないねん。」T「服だけってことは体には触ってないってこと？」D児「うん。」T「そうなんだ。皆そういう時ってどうしたらいい？」と皆に問いかける。E児「服も体と一緒にやからアウトやろ。」B児「Dちゃん言ってたみたいに体触ってないからセーフじゃない？」など全体でも意見が割れる。T「じゃあきく組の鬼ごっこのルールはどうしようか。」と教師が聞くと、皆でしばらく考えたが決まらず、多数決で決めようという話になり、皆が賛成したことで多数決により服をタッチしてもアウトというクラスでのルールが出来た。



第1学年

時期 (月) 4・5・6・7 8・9・10・11・12 1・2・3

期待する子ども像 自分の思いや考えを言葉で表現できる子ども ~友だちと一緒に学ぼう~

最後まで よい姿 に育っ てほ しい姿 が見 られ た	幼見期の 終わり まで に育 っ て ほ しい 姿 が 見 ら れ た	協同性 自分の力を発揮し、楽しみながら新しい友だちと学習する。	ゴールに向かって、友だちと協力しながら学習する。	友だちと話し合いながら試行錯誤し、工夫して学習する。
	言葉による 伝え合い	新たな友だち関係の中でも自分の思いや考えを言葉で伝えようとする。	友だちと話し合いながら、学びを進めていく。	友だちと話し合う中で、いろいろな考えに出会い、学びを深める。

国語「おおきなかぶ」
・挿絵や年齢などをヒントにして、登場人物の性格などを想像した。かぶをひいたときの登場人物のセリフを全員で話し合い、オリジナルの劇を作った。劇の様子は録画して、全員で自分たちの様子を振り返りを実施した。録画したビデオを校内放送で流そうと提案すると、「いやだ」と「これでいい」という考えに分かれた。いやだと思ふ理由を尋ねると「止まっているところがあるから」と答えた。それに賛同する子が出てきた。「なぜ止まるのかな」と問うと、「セリフを覚えられていないから」ということに気付いた。よりよいものを見せたいという思いから、意欲的に楽しみながら取り組むことができた。

算数「ながさをくらべよう」
・紙テープに長さを写し取って、長さを比べる活動をした。ペアになって、「何をはかるうか」と意見を出し合って、いろいろなものの長さを写し取った。黒板などの大きいものは、自然と「そっちをおさえて」「ここを持って」など声をかけ合っていた。持っている紙テープを比べるために床に貼っていると、「僕たちの方が長い」などと別のペアと勝負が始まった。自分たちの方が長いと思っても、「端が揃っていないからずるい」と言って比べなおしている姿が見られた。



生活科「秋のお店屋さんをひらこう」
・身近にある秋の自然物を使って、遊びやおもちゃを考えた。幼稚園の駐車場や近くの神社などで秋見つけをした。その場に落ちているもので遊ぶように声をかけたり一緒に遊んだりしてイメージを持たせた。たっぷり時間を使って遊びに没頭出来るようにした。自分たちが考えた遊びを誰かにやってもらいたいとのことで、お店屋さんをすることになった。お店屋さんとして、どのようなルールにすれば喜んでもらえるのか、友だちと話し合いながら決めていった。また自分たちで話し合って作業を分担しているグループもあった。1人でお店をする子もあったが、教師が「〇のときはどうするの？」など質問して考えさせるようにした。体験して助言するという活動を教師側が設定したが、わざわざ設定しなくても自然と子どもたちは互いの遊びを体験し合って感想を伝え合っていた。お客さんをもてなすために休み時間も使って景品を作ったり、新しいルールを考えたりする姿が見られた。「自分たちのお店を楽しんでもらおう」というゴールに向かって、友だちと協力して進めることが出来た。



生活科「冬遊びを楽しもう」
・冬休み中に雪で遊んだことをたくさんの子どもたちが話題にしており、みんなで雪遊びがしたいという声から始まった。天候的に雪が期待できなかったため、「冬と言えば」という話から、「氷づくり」に挑戦することにした。各自が好きな容器に水を入れて中庭に置いた。しかし、氷は出来なかった。色つきの氷を作りたいとみんなで作戦会議を開いた。「どうやって作戦会議しようか」と投げかけると、「円になって顔を見ながらしよう」と声上がり、氷が出来たところを出し合った。「氷は寒いと出来る」ことから、どこが寒いのか探すことになった。「冷たい風が当たればいい」や「池に氷があったから、池の近くに置く」というアイデアが出た。また、いくつも容器を準備して、いろいろな場所に分散して置くという意見が出て、たくさんの子が実行していた。氷は出来なかったものの、友だちの考えを聞いて自分なりに工夫することが出来た。また、雪が積もった日に雪遊びをした。かまくら作りの中で、中に入れるようにするためにはどこを掘ればいいのか、中に入って確認して掘るといった作業を繰り返していた。大きなかまくらにするためには何をすればいいのか考えたり、友だちと相談して自分の仕事を決めたりしていた。



研究主題: 目指す子どもの姿に迫る主体的・対話的で深い学びの実現に向けた保育・授業の在り方 ～「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた幼保小連携を通して～

1 主題設定の理由

彦根市は非認知能力を系統的に育むために、幼小接続を教育施策の重点に掲げ、架け橋期カリキュラムの作成を進めている。城東学区の子どもたちの課題を踏まえ、育てたい力を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」「自立心」「思考力の芽生え」に焦点をあて、全ての子どもたちに学びや生活の基盤を育むため、架け橋期のカリキュラムの作成や指導方法の工夫について研究を進めてきた。そのことを通して、施設類型の違いを越えた幼保小連携を実現し、架け橋期における教育の質的向上を目指した。

研究2年目となる今年度は、昨年度作成した架け橋期カリキュラムを実施し、検証・改善することや、「滋賀県版学びのサイクルデザインシート」を使って、子どもの「～したい」がつながっていく保育や授業を構想し、質を高めたいと考え取り組んだ。

2 幼児教育と小学校教育をつなぐ取組や架け橋期カリキュラムに関する取組など

(1) 実施した研修会等

実施日	対象	内容等
4月11日	小学校管理職、加配教員	第1回幼保小接続連絡協議会
4月24日	カリキュラム開発会議構成員	第1回カリキュラム開発会議 ・1年生参観 ・今年度の計画、見直し
4月24日	小学校管理職 加配教員 教務(研究主任)	・加配教員の幼稚園での勤務に向けた打合せ ・本事業の今年度の取組についての打合せ
4月27日	1年生担任	彦根幼稚園 5歳児参観
6月6日	カリキュラム開発会議構成員	彦根幼稚園 3・4・5歳児参観
7月5日	カリキュラム開発会議構成員	るんびに一保育園 5歳児公開保育
7月25日	幼稚園管理職、加配教員	第2回幼保小接続連絡協議会
7月28日	カリキュラム開発会議構成員	東保育園 5歳児公開保育
7月末	小学校全職員	半日保育参観
8月7日	小学校全職員	7月末の保育参観からの学びまとめ、学びのサイクルデザインシートを使った生活科・総合的な学習の単元構造
8月8日	カリキュラム開発会議構成員	第2回カリキュラム開発会議 ・1学期の振り返り ・2学期の計画
11月13日	カリキュラム開発会議構成員 県内校園からの参加希望者	公開研修会 ・聖ヨゼフこども園 3～5歳児公開保育 ・城東小学校 1年生公開授業 ・大学教授・指導主事からの指導講話
2月21日	カリキュラム開発会議構成員	第3回カリキュラム開発会議 ・今年度の振り返り ・次年度の計画

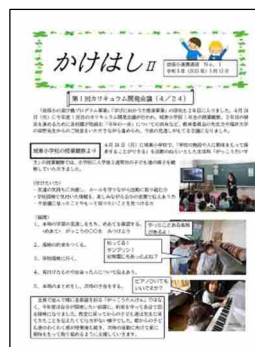
(2) 加配教員の取組

◆保育への参画について

各園に週15時間勤務し、5歳児のクラスを中心に保育に参画した。実際に子どもの活動の支援や保育の準備等をする中で、子どもの学びの姿や先生の関わりについて見たり、話を聞いたりした。園での取組で、小学校の授業のヒントになることや気付いたことを、1年生担任に伝え、小学校でも取り入れていけるようにした。

◆保育への連携通信「かけはしⅡ」の作成と配付

小学校に入るまでの子どもたちがどのような学びをしているのか、また、小学校の教科や生活に繋がるところ、園でされていることで小学校でもできる工夫などについて連携通信「かけはしⅡ」で発信した。また、幼稚園の園内研究に参加し、各園が目指している保育の在り方について学んだことや、各校園の保育・授業の様子についても、大切にしたい「幼児



期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて整理し、意識しながら小学校の指導につなげていけるようにした。

◆架け橋期カリキュラムの作成について【別添資料①共通シート】【②滋賀県学びのサイクルデザインシート】

架け橋期カリキュラムについては、各園の5歳児クラス担任、園と小学校のコーディネーター2名、加配教員が中心となり作成を進めた。本市の研究指定校園の子どもたちは、教師が指示したことには素直で真面目に取り組むことができることや、友だちと一緒にやりたい遊びを見つけ、目的をもって遊びを進めることができるというよさがある反面、思いを上手く伝えられないことや、指示待ちで失敗を恐れがちであり、積極的に考えを話すことについて、苦手な子が多いという弱みがある。このことから、期待するこどもの姿を「『心が動く、心をほぐす』～答えがないことでも、自ら考え、しなやかな心もち、失敗を恐れず行動する～」とし、重点とする「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を「自立心」「思考力の芽生え」の2点に絞り、各園それぞれの良さを活かしながら作成を進めてきた。



今年度は、共通シートの「主な教育活動・予想される活動」の園の部分を小学校とのつながりが見えるように5領域にまとめた。小学校も生活科や行事・学活等を中心に置き、園からのつながりや教科等横断的な合科的・関連的な学びが分かりやすいよう矢印や色を使って整理し直した。さらに「ぐるぐるシート（滋賀県版学びのサイクルデザインシート）」を使い、子どもの「～したい」をつなげて、保育や授業を構想したり、記録したりして、具体的な保育・授業の流れが見えるようにした。

3 実践事例

(1) 幼児教育と小学校教育の相互理解

◆各校園「それぞれの一步」

昨年度末の会議で、取組のまとめをした際、1年間の取組によって、期待する子ども像や重点とする10の姿を共有し、方向性をそろえることを確認した。今年度は、各校園の課題に合わせた「それぞれの一步」を考え、取組を進めることになった。

<p>◎城東小学校</p> <p>ふかめる一步【焦点化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の記録や反省をもとにした、取組の見直し ・生活科を核とした学習 デザインの立案 ・4月5月の1日の生活や学習、フリースペースの活用についての計画、実施 <p>ひろげる一步【連続性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別活動における「自主的」な姿のより一層の追究 ・幼児期の学びから積み上げる「生活科」「総合的な学習の時間」の創造 	<p>◎彦根幼稚園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内研の取組を充実したものに ・3～5歳児、その学年の発達が次の学年につながるように ・子どもの実態をふまえ、自分の保育も大切にしながら
<p>◎聖ヨゼフこども園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自立できる支援・0歳から自立に向けた環境・5歳児は自分で動ける環境 	<p>◎るんびー保育園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに、よりよい保育ができるように ・個々の発達を大切にする ・子どもからのSOSを見逃さないようにしたい <p>◎東保育園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生自身が保育を楽しむ → 子どもの育ちにつながる。 ・5歳児中心になっていたので園全体で周知するようにする。

(2) 研究テーマに迫る各校園の実践

◆城東小学校「『〇〇したい』をつなぐ みんなでやろう」

入学後、小学校のことを子どもたちに「教える」のではなく、「どうしたらいいと思う?」「園ではどうしてた?」など、園での経験を引き出すことを意識した声掛けを続けた。また、園での様子を参考に、登校後ゆったり安心して過ごせるスペースを教室横に用意した。このことで、新しい友だちとも自然に関わり合う等、なめらかな接続を実現することができた。



1年生の生活科の学習では「〇〇したい」という子どもの思いを拾い、それをつなげて学習を展開していけるようにした。また、夏休みには、全職員が4園に分かれ保育を参観し、その分析を活かして、校内研究として2学期以降の生活科・総合的な学習の時間の授業の構想を練った。「ぐるぐるシート」に整理することで、子どもの「〇〇したい」という思いからスタートし、それがつながるよう、具体的に子どもの姿を思い浮かべながら単元をデザインすることができた。校内研究では、「ぐるぐるシート」で構想した総合的な学習の時間の学習活動や内容を、学級活動へとつなげていくなど、教科等横断的な視点を持ち、授業を展開することができた。「ぐるぐるシート」で授業をデザインすることで、「〇〇したい」という子どもたちの思いが次々とつながり、授業者も予想される子どもの姿を楽しみながら具体的に学習の流れを考えることができ、手応えを得ることができた。今後も、目指す子どもの姿や授業イメージの実現に向け、校内研究を核としながら全員で取組を続けていきたい。

◆聖ヨゼフこども園「夕涼み会に向けて」

自分たちで内容を考え、自分の思いを伝えることや友だちの思いを聞くこと等、年長児で話し合い、考える経験をもつことができた。この活動の中で、自立心や思考力の芽生え、言葉による伝え合い、協同性、社会生活との関わり、量・図形・文字等への関心・感覚、豊かな感性と表現に係る育ちが見られた。今後も子どもたちの日々の生活や行事など、子どもたちにとってよりよい経験を増やしていけるようにしていきたい。また、架け橋プログラムの内容や通信などを共有し、全職員で同じ目線・思いで子どもたちに関わっていけるようにしたい。



◆るんびに一保育園「食物の栽培（野菜）を通して」

種芋から、土嚢袋でじゃがいもを育てる活動を行った。じゃがいもの世話や収穫・仕分け作業などの活動を通して、子どもたちは主体的に関わることを楽しみ、自信をもって栽培に取り組んだ。グループで水やりをしながら協同性を育み、陽の当たり方や葉の様子に探求心をもち、成長を楽しむことができた。また、クッキングの実践では、調理用具の安全な使い方を理解し、じゃがいもの形やピーラーの仕組みから、どのようにすれば皮を剥きやすいか、工夫する姿が見られた。子どもたちの姿や気持ちに寄り添いながら、今後も成長を見守っていきたい。



◆東保育園「絵本の読み聞かせから砂遊びへ」

ザリガニの絵本の読み聞かせから、子どもたちはザリガニ探しをしたり、砂場での沼作りに取り組んだりした。実際の飼育活動から、沼作りがさらに盛り上がり、今まで砂場遊びに興味を示さなかった子どもたちも一緒に楽しんだり、イメージを共有したりして遊ぶ姿が増えていった。子どもたちの「こうしたい」「もっとああしてみたい」という思いが、友だちとの遊びの中で実現していく経験から思いを発信し、遊びへとつなげていく力が育っていった。また、試行錯誤を繰り返す中で、考える力や諦めずにやってみようとする力が育っていった。遊びの中で培われた自立心や思考力の芽生えを大切に、今後の保育につなげていきたい。



◆彦根幼稚園「身体を動かして遊ぼう」

公園づくりごっこや運動施設での遊びの中で、友だちと話し合ったり、目的をもって挑戦したりした。“できた、がんばった”経験を積み重ねることで自信に繋がり、思い切り身体を動かして遊ぶ楽しさを感じることができた。更に運動会に向けての取組や異学年との関わり、園庭での遊具遊びの経験を重ねることで、互いの役割を意識することやルールの共有等、遊びの中で、資質・能力を培ってきた。今後も個々の頑張りを認めていき、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動できるように援助や環境を考えていきたい。



4 研究の成果と課題

◆成果

今年度行った共通シートの見直しと、「ぐるぐるシート」を使った保育・授業の構想・記録により、いつ・何を・どのようにしたのかが具体的に分かるようになった。この「ぐるぐるシート」を各学期に1つずつ作成することを続け、実践をためていきたい。次年度以降に担任になった者が「架け橋」の理念を踏まえながら保育・授業を構想する際の手掛かりになると考える。また、各校園、職員みんなで研究に向かうという思いをもち、取組を進めることができた。

◆課題

次年度の重点の1つとして、加配教員、コーディネーターがいなくても持続可能な体制や方法を考えていくことがある。その1つの方策が、共通シート・ぐるぐるシートを活用し、保育・授業の質的向上を図りながら目指す子ども像にせまることである。また、それを実施していくために、各校園で教職員が学び合う場をどのように改善していくとよいかということも、この取組を継続させていくための大切な視点と考える。

5 今後に向けて

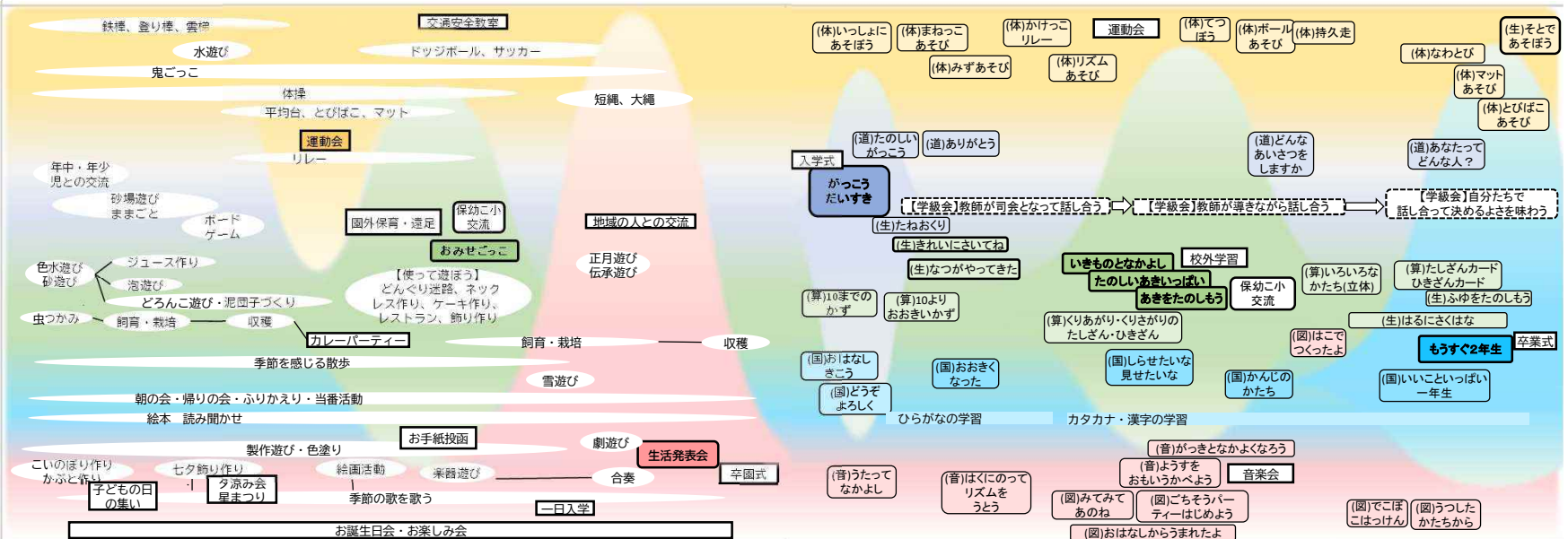
研究最終年である次年度は、小学校と4つの園が、施設類型の違いを越え、互いに知り、理解し合いながら学び合える取組を更に続けていきたい。そのために、合同で研修を行うことや、各校園での研修や研究会に気軽に参加し合えるようにしていきたい。取組2年目を終え、架け橋プログラム推進の最後の年に向けて、これまで以上に1校4園、つながりを大切にしながら、取組を進めていきたい。

5 歳児

第 1 学年

時期	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3
期待する子ども像	心が動く、心をほぐす ～答えがないことでも、自ら考え、しなやかな心をもち、失敗を恐れず行動する～					
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	自立心 園生活を通して、もっとこうしたいという思いが強くなり、試行錯誤しながら、自分なりに最後までやってみようとする。 思考力の芽生え 環境や友達の刺激を受け、試行錯誤しながらもっと楽しくしようと工夫するようになる。	満足感や達成感を味わい、自信をもって諦めずに取り組むようになる。	友達と考えを出し合い違いを受け入れて新しい考えを生み出そうとする。	興味をもって色んなことにチャレンジし、「できた!」を味わうようになる。 「できた!」自信をもとに見通しをたて、チャレンジし続けるようになる。	友だちの多様な考えに刺激を受けながら、試行錯誤する面白さを味わうようになる。	ひとりで考えたり、友達と考え合ったりして物事を解決する面白さを味わい続けるようになる。
大切にしたいこと	環境 単元 ・子どもが、自らやってみたくと思える環境の工夫 ・友達同士の関わり (異年齢交流を含む) が活性化する場合づくり	・子どもと先生が共に作る環境 ・同じ目的に向かって取り組みたくなる場づくり	・柔軟な教科書教材の取り扱い ・児童の発想・思いを生かした単元構想	先生の 関わり ・「伝えたい」を受け止める振り返りの雰囲気づくり ・個の思いを認め、友達とつながる振り返りの充実	・入学前の活動経験や思いを引き出す問いかけ 「どうしたい?」「どうして?」 ・子どもの気付きを教科の気付きへ	・次どうしたいかが生み出されるような振り返りの工夫
キーワード	あれもやりたい! これもやりたい!	もっと もっと やりたい!	できたよ! もっとできるよ!	知ってる! やりたい!	もっと もっと やりたい!	できたよ! もっとできるよ!

主な教育課程・予想される活動



振り返り

○空き教室をフリールームとし、朝の用意が終わった子どもはその部屋でゆっくり過ごしてもよいとしたことで、安心してスタートを切ることができた。
 ○「がっこうだいすき」の学校たんけんでは、子ども一人ひとりが行きたい場所に自由に行けるよう、全教職員の協力を得て実施した。
 ○「なつがやってきた」では、遊びなどで困ったことがあった時は、友達や先生と相談しながら進めることができた。また、春との違いに気付けるよう、板書で整理した。
 ▲園での経験や子どもの思いを引き出せるような発問や展開を心がけたが、教師主導になってしまうこともあった。

○「たのしいあき いっぱい」では、夏から秋の季節の移り変わりの中で、きれいに白ついた葉や落ち葉のカサカサした音などについて、国語科「しらせたいな 見せたいな」の学習で発見したことを友だちに伝えることができた。
 ○「あきをたのしもう」では、子ども達のやりたい気持ちを大切に言葉掛けをしてきた。秋の物を使った遊びを相手 (園児) に合わせて改良し、レベルアップしようと友だちと相談しながら進めることができた。デザインシートを使って子どもの「〇〇したい」という思いをもとにした学習を展開することができた。
 ▲秋の物を使ったおもちゃは個々に小さな物を作ることから始まった。子ども達が、大きな材料に気付いてダイナミックな製作ができるような準備や材料を出すタイミングが少し遅れてしまった。

○「もうすぐ2年生」では、様々な教科の学習や行事等において一年間でがんばってきたことを思い出し、友達と成長を喜び合ったり励み合ったりすることで、自分自身の成長に気付き、自信を深めることができた。
 ○一年間のことを思い返すことを通して、入学式などで自分たちが上級生に優しく迎えてもらったことを想起し、新1年生を温かく迎えたいという思いをもち、入学式でのような発表をしようか考え、意欲的に話し合って決めることができた。
 ▲「ふゆをたのしもう」では、子どもの思いを聞く前に教師が限を定めることを決め、材料を与えてしまった。風を感じながら十分に遊んだり園での経験を想起したりする中で出る子どもの声を持つことが足りなかった。

②滋賀県版
学びのサイクル
デザインシート

【身体を動かして遊ぼう】 「～したい！」に繋がる 手立て・配慮・場の設定

○子どもの姿 ☆環境 ◎保育者の援助・配慮する要項 *保育者の気付き・願い

【バス遠足】

○大型遊具遊びでは、自分なりに身体の使い方を考え、意欲的に取り組む。
○サーキット遊びでは、友だちと競いながら、一つ一つの遊具や障がい物にチャレンジすることを楽しむ。
○吊り輪をしっかりと握り、「ゆらゆらブランコ」「くるんで回れるで」など手や足を使っているいろいろな技に挑戦する。

【固定遊具・チャレンジ走】

○靴と靴下を脱ぐと登り棒をスルスルと登れることがわかり、何度も繰り返し登ったり下りたりし、上まで登る楽しさを味わう。
○ハードル遊びでは、バーの並べ方を工夫し、色々な方面から跳び越えられるように組み合わせをたり、遠くから走ってきて跳び越したりして遊ぶ。
○巧技台からジャンプしたり、マットの上を立ち幅跳びしたりしながら自分がどこまで速くへ跳ぶことができるのか挑戦する。
☆いつでも遊具にチャレンジしたり、選んで使えるように手の届きやすいところにミニハードルや巧技台を置いておく。
◎目的をもって繰り返し取り組む姿を認めていく。時には保育者も一緒に挑戦したり、競ったりして、意欲が高まるようにかかわる。
◎友だちががんばっていることに気付き、一緒に喜んだり応援したり、認め言葉をかけている姿を認めていく。

【身体を動かして遊ぶ楽しさを感じる】

○運動会でしたチャレンジ走の障がい物を好きな場所に置き、動かして遊ぶ。
○鉄棒や雲梯、上り棒、縄跳び、フープ等に自分なりの目標をもって挑戦し、できるようになった技を友だちや保育者に見せ、認めてもらうことで自信をもち、更に意欲的に取り組む姿が見られるようになってきている。
☆“ここまで頑張りたい” “ここまで頑張れた” が目で見てわかるようにカラーテープで印をつける。
☆繰り返し取り組む中で少しづつできるようになる嬉しさを感じたり、新しい目的をもって挑戦したりできるように、修行カード（チャレンジカード）やいろいろな技を示した掲示物などを準備しておく。
◎頑張っている姿などをみんなの前で紹介していくことで、保育者だけでなく、友だちにも認めてもらったり、友だちのよきに気付いたりできるようにしていく。
☆友だちがしていることに関心をもったり、明日の遊びがより楽しくなるように考えたりできるようにしていく。

こっちからも登れるよ！



忍者みたいにできるで！



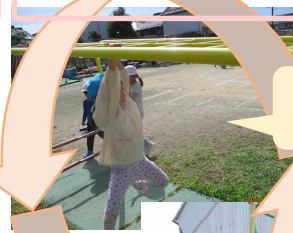
よ～し、負けないぞ！！



ここはジャンプして玉を投げよう♪

こうしたらもっと面白くなりそう！！

はんぶんまでがんばってみる！！



手だけでも登れるんやで！

* “できた” を積み重ねることで自信につながり自分なりに身体を動かしたり、技を考えたりしながら思いっきり身体を動かして遊ぶ楽しさを感じている。

* 近くに保育者の存在があり、自分の頑張る姿を認めてもらうことで繰り返しやってみようと思えたり、修行カード（チャレンジカード）を用意することで “この技をしたい” “ここまでがんばりたい” など自分なりの目標をもって意欲的に取り組んだりする。

* 友だちがしていることに関心が出てくることで、一人で取り組んでいたことを “友だちと一緒にしてみたい” “○○ちゃんみたいにできるようになりたい” という気持ちが出てくる。

②滋賀県版 学びのサイクル デザインシート

◎環境構成 ☆保育者の援助・配慮

【城東小学校区】園名（彦根市立東保育園）

◎自分なりにイメージを膨らませながら自由に描いたり、作ったりすることができるように様々な道具や材料を用意し環境を整えておく。
☆絵本やエプロンシアター、紙芝居など、様々な形でお話を楽しめるようにする。

- 好きな遊びの時間に絵本作りをする子、お面を作っている子など一つの絵本から遊びを広げていく姿が見られた。
- 「○○ちゃんはどんなことしてるかな」「○○くんは何を作っているんだろう」と個々で楽しんでいる遊びにも興味を持てるように保育士が関わっていけると、遊びが広がっていったのではないかな。

お客さんと呼んだら
もっと面白そう♪

○○ちゃん、
本物のニワトリみたい！
ペープサートでの
お話遊び

絵本の世界から
遊びに繋がる経験



僕もブレーメンの
絵本を描きたい！

私はイヌ役がしたいな

◎保育室の一角にお話遊びのコーナーを用意し、自由に表現したり、お話に触れたりすることを楽しめるようにする。
☆クラスで活動する時間に子どもがペープサートを使ってお話する機会を作るなど、友だちがしている遊びやブレーメンのお話に興味をもてるように機会を設けていく。

- 自分たちで役割分担をして配役を決めたり、役を演じる子とお客さんをする子で分かれて遊びを楽しむ姿が見られた。

◎遊戯室など広い空間で自由に表現することを楽しめるようにする。
☆友だちの姿に興味をもったり、個々の表現を認めたりしながら楽しい雰囲気の中で活動が行えるようにする。

- 友だちの姿を真似たり、「○○ちゃん上手」と認めたりしながらそれぞれが自由なイメージをもって楽しむ姿が見られた。
- 広い空間で自由に表現遊びを楽しむ姿が見られた。保育者が誘いかけて一緒にやってみたり、友だちの表現に気付いたりできるように関わっていけると、よりクラス全体で活動を楽しむことができたと思う。

泥棒を驚かせるシーンを
やってみたい！

体を動かしてなりきり遊び



ネコってこんな感じ？

マルチパネルで
泥棒の家を作ったよ♪

◎お面を多めに用意しておき、興味をもった時に遊びに参加できるようにする。

- 「もっとこんなものがあればいいのにな」「あんなことしてみたい」と友だちや保育者に自分のイメージを伝えながら遊ぶ姿が多く見られるようになってきた。

園は指導を行う際に、
「**幼児期の終わりまでに
育ってほしい姿**」を考慮

☆友だちの頑張りに気付き、刺激を受けながら取り組めるようにする。

☆サークルタイムや集いの時間に友だちの頑張っている姿や、自分の頑張ったことを振り返ったり、劇遊びに必要な物について話し合ったりする中で、クラス内で同じ意識を持って遊んだり、それぞれが目的を持って取り組んだりできるようにする。

- ただ自分の思いや感じたことを伝えるだけの振り返りになってしまうことも多かったので、子どもの思いや意見を他児に投げかけ、互いに伝え合うことで、より実りある話し合いができたのではないかな。

今日もっと大きな声で
セリフを言いたいな。

つきぐみの
劇遊びへ

発表会



たくさんのお客さんが
いて緊張するなあ・・・

泥棒の家やごちそうも作ってみたい！
何を使って作ったらいいかな？



☆発表会までの日を子どもと一緒にカウントダウンしたり、クラスでの目標を考えたりしながら当日に向けて気持ちを高めていけるように関わっていく。

- 発表会に近付いていくにつれ、「もっと大きい声でお客さんに聞こえるように話す」「まっすぐ立って歌った方がカッコいい」と見てくれるお客さんのことを考えながら、目標をもって劇遊びに取り組む姿が見られた。

保育者との信頼関係に 支えられた生活

②滋賀県版 学びのサイクル デザインシート

【環境の工夫】

○夏の野菜が終わったことをみんなで確認した後、冬に向けてどんな野菜を植えたいか投げかける。
○後日にもう一度話し合う機会を持ち、出た案の中でどの野菜を植えることに決めるか相談する。
○子どもたちに野菜のイメージが付きやすいように、イラストを使って示す。

●後日に再度話し合う機会を設けたことで、子ども達が時期に合った野菜について園で調べたり、家庭で話すきっかけができた。

〈帰りの会で話し合い〉
夏の野菜が終わった畑に何を植えよう？冬の野菜は何があるかな？



(後日) お家で冬の野菜調べてきたよ！みんなで手をあげて多かった野菜に決定しよう！

○外遊びの時間に種まきをを行うことを伝えておき、やりたい子ども達で行う。
○一度種の撒き方の見本と説明をした後は、子ども達同士で声を掛け合いながら行う。

●たくさんの子が畑の周りに集まったが、子どもたちが4種類の野菜からどの野菜の種を植えたいか声をあげ、担当を決めたことで、「この野菜は私が頑張る！」と責任をもって取り組めた。

〈外遊びで種を植える〉
人参ってこんなに種は小さいんだね！1人4粒ずつにしよう！そっと土をかぶせてね。



お水ってどれくらいあげたらいいのかな？りす組さん、そんなに溢れていたなら種がおぼれちゃうよ！

〈野菜の生長の様子〉
大きい人参になるように土をしっかりと固めるぞ！どれくらい大きくなったかな？(土を少し掘って見てみる姿)



○基本的には当番の人が野菜の水やりを行うと決めているが、外遊びの際にやりたい子が積極的に行っている。
○間引きや土を整えるなど、生長に必要なことは、帰りの会などで皆で確認する。

●当番が水やりを行っていないことなどに気付いた子が、声を掛け合う姿が見られた。

人参ケーキ クッキング

【先生の関わり】

〈収穫〉
いろんな大きさの人参があるね。私のは足が生えるような形だよ！



〈本づくり〉
持ち物が書いているよ。忘れないようにしないと！



〈各クラスで収穫した野菜をどうするか相談〉
カレーの中に人参が入っているね。クッキー作ったことあるよ！



〈当日の様子〉
僕のは水が多すぎたかな？私のが少なかったのかも…でも焼いてみよう！

完成したら繋がって手を繋いでるようになったよ！美味しいね！

○本づくりでは、各クラス自己選択活動の中で取り組めるように準備した。
○振り返りのスペースを作ることで活動を思い返すなど、次の活動に繋がるようにした。

●色を塗ったり自分なりに工夫して取り組む姿があった。

○当日は、活動時間だけを部屋に掲示し、自分たちで本を認しながら移動するなど取組を進められるようにした。
○環境設定として調理の流れや用具の使い方が目で見てわかりやすいように配置した。
○いつもの給食の流れと同じようにホールにセッティングしたことで普段通り取り組めるように促した。

●60mLなど計るのに少し悩んでいる姿もあったが、周りのお友だちの姿を見ながら道具の使い方を知ることができた。
●生地の粘り気など様々だったが、それぞれの良さを認めて満足し合う姿があった。

②滋賀県版
学びのサイクル
デザインシート

◎環境構成 ☆保育者の援助・配慮を要する事項

【「～したい！」に繋がる 手立て・配慮・場の設定】

☆子どもの思いやイメージを大切に、具体的な表現や流れについて、見てイメージがわくよう黒板を使う。
◎CDデッキを準備し、実際に楽曲を流して曲に親しませる。

☆動きが合っていない様子が見られたら、身体の使い方やリズムの理解につながるように共に考えていくようにする。
◎全員が体を動かせる十分なスペースを確保する。

☆順番やポーズの変更を、納得のいくまで考え直し、演技に愛着をもてるようにする。
☆一人ひとりの思いに耳を傾け、必要に応じて曲を止めたり、リストバンドを作成したりして、より意欲的に取り組めるようにする。

☆今までのがんばりや友だちと気持ちを合わせていたことを誉め、自信をもって楽しんで参加できるように関わっていく。
◎借用しているグラウンドの小石を拾ったり、白線をひいたりして、安全に演技できるように配慮する。

運動会に参加

全体で合わせる

ポーズを変更する

ポーズや振り付けを考える

リズム表現について意見を出し合う。

お家の人が見に来てくれてうれしいな！

みんな手がそろってかっこいい。

合わせてみたら曲とずれてしまうなあ。

手をつないだらやりやすいかも。

海の生き物とかどうか。人魚とかは？

●曲を聴くことで、意見が出しやすい雰囲気となり、友だちの意見にも関心をもっていた。

●イメージを言葉にしたあと、体現するために必要な動きを子ども同士で考えていた。

●一人で移動するのが難しいと言った子どもに、一緒に移動しようと声をかける子どもの姿があった。

●子どもからの提案で、全員の右手に目印となるリストバンドを着け、自信をもって手を挙げられるようにする工夫ができた。

●当日は「恥ずかしいなあ」と言う子どももいたが、全員で堂々と演技をすることができた。
●お家の人に喜んでもらい、子どもたちも達成感と自信に満ち溢れていた。

②滋賀県版
学びのサイクル
デザインシート

- 夏休みや登下校中に虫を見つけた児童の話を書く場を設け、「虫をさがしたい」「見たい」という思いを高められるようにする。
- 虫の本や、秋の葉っぱの本などを学級文庫に用意する。
- 夏の虫探しを想起し、虫のいそうな場所を予想したり活動したい場所を見通したりする。
- 一人ひとりが行きたい所に自由に行けるように、みんなで虫探しの約束を考える。
- 虫探しの後は、板書で校庭の配置図を簡単に示し、「どこで」「どんなふうに」見つけたのか、その時の状況はどうだったかななどを尋ね、夏と秋の虫探しで「同じこと」「違うこと」を挙げ、比べることで季節の違いに気付けるようにする。
- 活動後、休み時間にも各自で虫探しに行きついでよいことにする。

⑤「ダンゴムシは秋にもいたよ。」
「夏にはいなかったセミがいたよ。」
「バッタがいたよ。草を入れておこう。」
「アオスジアゲハがいた！捕まえるときは、そーとね。」
「○○さん、捕まえるの上手！」



⑥「たくさん見つけたね。」
「今日の“ピカイチさん”をプリントにかこう。」
友だちの“ピカイチさん”を聞く。
↓
「いろんな虫がいるな。」
「いっぱいいるやん。」

⑦「うまく捕まえられなかったよ。」
「○○さん、捕まえるのが上手だね。」
「虫とり名人だね！」
「コツがあるのかな。」
「捕まえ方を聞いてみよう。」

①「夏休みの宿題で、虫図鑑を作ったよ。」
「ぼくは、セミの抜け殻をたくさん見つけたよ。」
「先生がセミの抜け殻をもってきてくれたよ。」
「学校に行く途中、トンボが飛んできたよ。」
「他にもいろんな虫がいますよね。」

⑧「もっと違う場所で虫探したいな。」
「山とか行きたいな。」
「かわべ生き物の森！」
「荒神山！」
「公園は？」
「公園なら、すぐに行けるよ。」

* 授業時間だけでは、捕まえられなかった子ども、休み時間にも虫探しをしてもよいことにしたこと、「～したい」気持ちと活動が継続した。
* 虫を見つけた場所を校庭マップで表したことから、「自分もその場所に行きに行ってみよう」という意欲につながった。

- 児童の言葉を基に、約束を確認する。
- 見つけた虫、秋の物について、何か例えたり触れたりなどして特徴を捉えている児童に共感し、対話しながら児童なりの気付きを引き出す。
- 幼児期やこれまでの経験を基に、自然の様子や特徴について気付いたり予想したりしている児童の発言を認め、全体へと広げていく。
- 虫探しの後は、公園の平面図を示し、「どこで」「どんなふうに」見つけたのか、その時の状況はどうだったかを尋ね、校庭での虫探しと比べて、どんなことが違っていたか気付けるようにする。また、生き物を見つけた場所に注目し、校庭との共通点も見つけていけるようにする。

④「一人ひとり行くなら約束を考えておこう。」
「虫をとるなら、虫とり網や、虫かごがいるね！」

⑩「高い所にいる虫も捕まえたいな。」
「伸びる長い網を持ってこよう。」
「どんぐりや葉っぱを入れる袋もいるね。」
「虫かごは肩から下げられるものだと動きやすいね。」

③「どこを探すといいかな。」
「一人ひとり行きたいところに行こう。」
↓
「夏よりもっと時間がほしいな。」
「秋だからトンボがいるかな。」

②夏にはあまり見つけられなかったから、虫探しに行きたいな。

⑩「高い所にいる虫も捕まえたいな。」
「伸びる長い網を持ってこよう。」
「どんぐりや葉っぱを入れる袋もいるね。」
「虫かごは肩から下げられるものだと動きやすいね。」

⑩「校庭よりもっとたくさんの虫を捕まえたいな。」
「たくさん虫がいると思うよ。」
「時間はたっぷりほしいな。」
「どんぐりや葉っぱもひろりたいな。」

⑩「校庭よりもっとたくさんの虫を捕まえたいな。」
「たくさん虫がいると思うよ。」
「時間はたっぷりほしいな。」
「どんぐりや葉っぱもひろりたいな。」

④「一人ひとり行くなら約束を考えておこう。」
「虫をとるなら、虫とり網や、虫かごがいるね！」

* 公園から帰った後、「秋のおたからマップ」を作成したことで、学校での虫探しと比較し、「公園の方が虫の種類が多い」「どんぐりや木の実、落ち葉がいっぱいある」などを発見することができた。虫だけでなく、葉っぱやどんぐりなどの秋の物へ、関心が広がった。

- 秋の草花や樹木、虫などの動植物の観察をしたり、どんぐり工作体験をしたりする校外学習（AP）を計画し、事前学習で施設の写真を見て、どんなことができそうか予想する。
- どんぐり工作で作ったものを家族へのお土産として持ち帰り、「もっと作りたいな」「どんぐりで○○を作りたいな。」という意欲が高まるようにする。

⑩「虫だけでなく、どんぐりや葉っぱも見つけたよ。」
「どんぐり工作、楽しかったね。」
「自分でも作ってみたいな。」

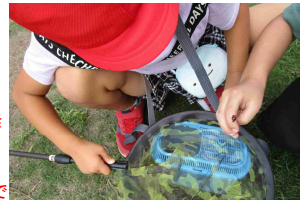
⑩「森のクイズがあるみたい！」
「広いところだから、虫もいっぱいいるはず。」
「どんぐりや葉っぱも拾ってこよう。」

⑩「かわべ生き物の森ってどんなところ？」
「何があるのかな。」
「虫を捕まえたいな。」
「秋の物を見つけない。」

⑩「かわべ生き物の森ってどんなところ？」
「何があるのかな。」
「虫を捕まえたいな。」
「秋の物を見つけない。」

⑩「○○遊びをして、楽しかったね！」
「カナヘビがたくさんいたよ！」
「大きなアリもいたよ。」
「自分でアクセサリやどんぐりゴマを作りたいな。」
「葉っぱを集めたら、スカートに見えたよ。」
「もっといろんなものを作りたい。」

⑤虫だけでなく、秋の物をもっと見つけたいな。もっと大きな公園へ行きたい！



* 子どもたちの発した「おたから」という言葉を大切に、素敵なものを見つけたり、集めたり作ったりするワクワク感に繋げていった。
* AP(校外学習)では、限られた数のどんぐりの工作であったため、学校に戻ってから、存分に遊べるよう、材料をたくさん集め準備を進めた。

②滋賀県版
学びのサイクル
デザインシート

○園児とともにやるおもちゃまつりでは、お世話を「してあげる」のではなく、「一緒に楽しむ」活動になるよう、園児の気持ちを想像しながら、一緒に楽しめる遊びやおもちゃに改良していけるようにする。
○友だちと遊んだ時と園児と遊んだ時とは何が違うのか問い、必要なことについて児童が考えられるようにする。
(ルールの変更・簡素化・説明・おもちゃの強度を上げるなど)

○園での秋に親しむ活動を想起しながら学習に臨めるようにし、「もっと楽しくするためにはどうしたらいいかな」と声を掛ける。これまでの経験を生かした工夫が見られた時にはそれを認め、価値付ける。
○「つくる→遊ぶ→振り返り・見通す→つくる→…」という一連の流れで毎時間過ごすことで、見通しをもった活動ができるようにする。
○作りたい物を作って、まずは自分が楽しみ、友だちに自分の作った物で遊んでもらって、「もっとこうの方がいい」と気付く場となるよう、友だち同士の交流の場を設定する。
○秋の物の不思議さや面白さに気付くことができるよう、自分の思いや考えを友だちと比べ、何度も遊びを試す場を設定する。

⑳「葉っぱでチョウを作ったよ。」
「葉っぱとどんでんぐりでお面を作ったよ。」
「どんでん迷路を作ったよ。」
「木の実ネックレスができたよ。」
「こすりだして、線の模様が出て楽しかったよ。」



㉑「〇〇グループの遊びが楽しかったね。」
「ルールを説明してくれて、楽しかったよ。」
「もっと他の人も遊びに来てほしいな。」

- * 子どもの思いを大切にしながら、必要な材料や道具の準備をした。違うグループの友だちのおもちゃでも遊び合いながら、よいものを作っていけるように声掛けを続けた。
- * 秋の物を使ったおもちゃは、個々に小さな物を作ることから始まった。子ども達が、大きな材料に気付いてダイナミックな製作ができるような準備や材料を出すタイミングが少し遅れてしまった。

㉒「何でどうやって作る？」
「材料は？」
「広い場所で作りたいな。」

㉓「迷路を作りたいな。」
「どんでんぐりを転がしたいな。」
「どんでんぐり、もっとほしいな。」
「友だちと一緒に作ると楽しいよ！」

㉔秋の〇〇を使っておもちゃを作って遊びたいな。

㉕「年長さんも、楽しんでくれてるね。」
「ルールを分かりやすく説明できたよ。」
「一緒に遊ぶと楽しいね。」
「景品を渡したら、喜んでくれたよ。」

おもちゃまつりを開こう
おもしろいおもちゃを作ろう

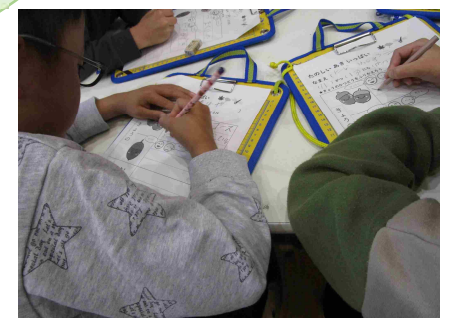
㉖「投げる場所を変えて、点数をとりやすくしたよ。」
「壊れやすかったから、テープでしっかりつけて丈夫にしたよ。」
「遊び方を画用紙に書いたよ。」

計画・準備をしよう

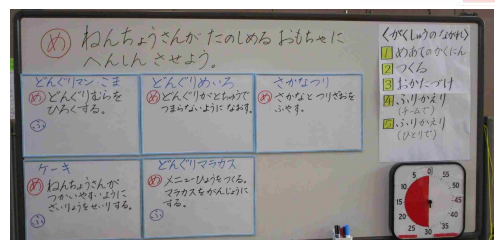
㉗「どうしたらもっと楽しくなるかな。」
「遊びと遊び方、どうする？」
「去年招待してもらったときみたいに、楽しいおもちゃまつりにしたいね。」
「たくさんの人が来てくれるから、広い場所で遊んでもらいたいな。」

どんなことがしたいかな

㉘「釣りやすいように、大きな魚を作ったよ。」
「遊び方を丁寧に説明したら、分かってくれたよ。」
「楽しんで遊んでくれたよ。頑張って準備してよかった。」
「また一緒に遊びたいね。」
「お家の人にもこのおもちゃで遊んでもらいたいな。」



㉙「看板があったほうが何のお店か、分かりやすいかな。」
「もっと丈夫なおもちゃにしたいな。」
「遊びのルールも変えたほうがいいかな。」
「分かりやすい簡単なルールにしよう。」
「景品を渡したらどうか。」



- * 園児との交流は2回実施できた。1回目の振り返りや反省で、次のおもちゃまつりに向けて、グループ内で相談しながら、作り直したり、おもちゃの数を増やしたりして、相手意識をもって取り組むことができた。
- * 2回目の交流の後、体育館の撤収作業等で慌ただしく、振り返りの時間や、達成感に浸る時間が十分に取れなかった。

教師との信頼関係に 支えられた生活

私立ありす保育園・私立金田東保育園・近江八幡市立金田幼稚園・近江八幡市立金田小学校
**研究主題：豊かな生活経験をする中で、
 自分の思いや考えを表現し合える子をめざして**

1 主題設定の理由

これまで、小学校はもちろん、幼稚園や保育園での保育や学習の公開・参観を繰り返しながら、子どもたちの姿を話し合い、共有してきた。豊かな経験をするための環境構成はどう考えるとよいのか、感じたり考えたりしている子どもたちの思いを引き出して積み上げるためにはどのように保育や授業を仕組めばよいのかなどについて、継続して協議してきている。

上記の研究テーマ「豊かな生活経験をする中で、自分の思いや考えを表現し合える子をめざして」は、学区就学前教育協議会の研究主題である。令和3年4月には、本市教育研究所研究員による幼保小の円滑な接続に関する研究がスタートした。研究員が定期的に発行する通信により、園児の活動内容や学びの姿、環境づくりなどを、小学校教員が改めて詳しく意識するきっかけとなった。就学前の子どもたちが様々な活動を通して学んでいる姿や内容を、その延長である小学校教育において把握し、身に付けてきた見方や考え方を十分に働かせることができるよう、つなぎ伸ばしていくことが未来の連携であり、円滑な接続となると考える。今後、この研究テーマを引き継ぎ、子どもたちの発達や学びのプロセスをより確かに見取っていきたいと考える。

2 幼児教育と小学校教育をつなぐ取組や架け橋期のカリキュラムに関する取組など

(1) 実施した研修会等

実施日	担当者	内容等
4月11日	幼保小管理職、担当者	幼保小接続連絡協議会・顔合わせ・事業内容確認
4月18日	幼保小管理職、担当者	学びに向かう力推進事業連絡協議会 加配教員の勤務に向けた打合せ
6月12日	幼保小職員、担当者	1・2年公開授業・研究協議会・相互参観
6月30日	幼保小職員、担当者	5年公開授業・合同研修会・相互参観
7月6日	幼保小職員	金田幼稚園公開保育・研究協議会・相互参観
7月10日	幼保小担当者	カリキュラム検討会 期待する子ども像について
7月18日	幼保小職員	ありす保育園公開保育・相互参観
7月19日	幼保小職員	金田東保育園公開保育・相互参観・合同研究協議会
7月24日	1・2年担任、担当者	校内カリキュラム検討会
7月25日	幼保小管理職、担当者	幼保小接続連絡協議会 事業の進捗状況交流
7月27日	1・2年担任、担当者	1・2年 指導案検討
7月28日	幼保小担当者	カリキュラム検討会 主な教育課程について
8月2日	小学校全職員	職員研修 保育体験
8月22日	幼保小担当者	幼保小合同カリキュラム検討会
9月28日	小学校職員	学びに向かう力推進事業訪問・指導案検討会 3年公開授業・研究協議会
10月12日	幼保小管理職、担当者	公開研修会打合せ
11月16日	幼保小職員	学びに向かう力推進事業公開研修会
12月20日	幼保小管理職、担当者	学びに向かう力推進事業意見交流会 公開研修会の振り返り
1月17日	幼保小担当者	学びに向かう力推進事業担当者会 1年目の振り返りと2年目に向けての話合い
2月13日	小学校管理職、担当者	近江八幡市幼保小接続推進会議
3月5日	幼保小担当者	新1年生の情報交換・1年目の振り返り

(2)加配教員の取組

◆保育への参画・保育の準備・打合せの参画について

週15時間、3園の5歳児クラスを中心に保育に参画した。園では、子どもたちの「したい！やりたい！」と思えるわくわくする体験の環境構成が充実しており、そこから生まれる子どもたちの思いを主とした遊びが展開されている。そこで感じたことは、言葉での伝え合いが遊びを深めていることである。遊びを通して気付いたり分かったりしたことを個人としても、また、振り返りの時間を活用して集団としても共有されている。そこでの発想が次の遊びへと展開されていく。保育の中で培われたこの力を小学校教育でも年度当初からつないでいけるようにしたい。

◆架け橋期のカリキュラムの作成について

カリキュラムについては、5歳児担任、1年生担任、研究主任、加配教員が中心となり作成を進めた。まず、期待する子ども像を幼保小の担当者で考えた。話合いの中で、子どもの学びはどこから生まれるのかが中心となった。「楽しそうだな。やってみたいな。」と心が動く体験をすることが基盤となり、そこから気付いたことや分かったことを友だちや先生に話したり、伝え合ったり、そして次はどうしようかと試行錯誤したりする姿に繋がっていく。そしてその姿は、架け橋期である5歳児、1年生共に共通しているのではないかとまとまった。予想される子どもたちの声をキーワードとして挙げ、期待する子ども像を「わくわく・もっともっと・聞いて聞いて～心が動く体験を通して思いや考えを伝え合う子ども～」に設定した。また、10の姿の中から「思考力の芽生え」と「言葉による伝え合い」の2つの観点に絞り、5歳児から1年生へ、そして2年生へと学びをつなげていくための内容を繰り返し話し合った。

3 実践事例

【金田小学校】

- ・加配通信の発行：幼稚園や保育園での子どもたちの姿やどのような学びをしているのかを加配通信「かけはし」として定期的に発行した。
- ・ドキュメンテーションの掲示：金田幼稚園が保護者向けに作成しているドキュメンテーションを小学校にも掲示した。幼稚園での取組が共有でき、小学校職員は、感じたことを付箋に書いて貼り付け幼稚園にお返しした。写真や細かな説明があるおかげで子どもたちが遊びの中からたくさんの学びをしていることがよく分かった。
- ・図書室見学、学校司書によるオリエンテーション、図書委員の読み聞かせ：図書を通しての取組として、小学校の図書室見学を実施した。学校司書によるオリエンテーションや本の貸し出し・返却体験も同時に行った。また、昼休みの時間を活用して小学校5・6年生の図書委員が金田幼稚園に行って読み聞かせなどの交流をした。
- ・運動会、音楽会の練習見学：主に1・2年生の練習を見学してもらった。実際に小学校での様子を見たことで「小学生になったら、あんなことをするんだ」と、より1年生への憧れや期待感を強くもってもらえた。また、1・2年生も自分たちの頑張りを認めてもらえたことは大きな喜びや自信になり、本番も頑張ろうと次の活動へと繋がった。
- ・保育体験・校内研修：夏休み中には、小学校職員がありす保育園と金田東保育園で保育体験を行い、幼児教育への理解を深めた。体験後には、10の姿に基づき、どのような姿やつぶやきが見られたかをまとめた。
- ・秋まつり：1年生教室を会場として、3園の5歳児を招待した。楽しく遊んでもらうためにはどうすればよいかを話し合い準備を進めた。5歳児・1年生と一緒に振り返りをしたり、国語科でまとめたパンフレットを読んでもらったりした。
- ・1、2年生の授業実践：両学年における合言葉は「活動してから考える」だった。小学校の授業づくりにおいて、「考えてからやってみる」ことは少なくない。しかし、低学年の子どもたちは十分な活動の中から様々な事象に気付き、振り返ることで知識や経験として蓄えていく。そこで、様々な授業において「活動」してから「考える」ことを大切にして授業に取り組んできた。11月16日の研究発表大会においても、1年生2クラス、2年生1クラスを公開し、主体的に活動し、活動から得た学びを交流するような学習を展開することができた。

【ありす保育園】

『友だちと考えやアイデアを出し合い、自分たちの遊びを進める楽しさを味わったり、協力しながら作ったりすることを楽しむ』をねらいとし、お店屋さんごっこの活動を進めてきた。自分の思いや考えを言葉にして伝えることは活発にできていたが、友だちが話すことに耳を傾けたり、受け入れたりする

ことが難しい場面があった。その都度保育者が仲立ちとなって互いの考えをより引き出したり、時にどのように解決するかを一緒に考えたりしてきたことで、相手の気持ちに気づき「こうしたらいいんじゃない」「じゃあ〇〇してみようか」など受け入れ考える姿勢がみられた。

【金田東保育園】

「一人ひとりの子どもが主体的に遊び、互いに思いや考えを伝え合えるようにする」「何度も試したり工夫したりして、玩具作りを楽しむ」をねらいとした。夏には泥んこ遊びを通して友だちと一緒に何度も失敗を繰り返しながら樋と砂を用いて高低差をつけ水の流れを感じ、秋にはその経験を生かして小さなクラスの子も楽しめる松ぼっくりの転がしコースターを子どもたちの発想で作り上げた。日常生活の中で、異年齢児と関わり保育者と共に相手の思いに寄り添い考えることを繰り返すことで、自分たちより小さな子を大切に思う気持ちを育むことができた。



【金田幼稚園】

(にじ組) 友だちと一緒に思いや考えを出し合いながら、遊びを楽しめるように心がけた。お店屋さんごっこでは、お店に必要な物を考えて作ったり、「お店の商品が足りなくて困っている」などと、遊びを振り返って困ったことをみんなで相談したりして、遊びを進めていた。振り返りの時間が、遊びの発展につながっていた。また、他学年をお店に招待する際には、「字が読めないかもしれないから、矢印や絵で看板を作ろう」と考えたり目線を合わせながら接客するなど思いやりをもって関わったりする姿も見られた。遊びを繰り返す中で“やってみたい”“面白いな”と心を動かしながら遊び込む姿が見られた。



(そら組) 興味のあることやものに自ら関わり、試したり工夫したりできる場や材料、じっくりと遊びを楽しめる時間を保障し、幼児の思いを軸にしながら遊びを進めていくことを心がけた。異年齢の友だちとの関わりでは小さい友だちが理解しやすい言葉を選んで伝え、「楽しかった」「ありがとう」などの思いを受け取る経験ができた。自分たちが考えた遊びの場を喜んでもらえたことの嬉しさを感じている。また、遊びの振り返りの場では友だちと「困ったこと」を共有したり、解決策を話し合ったり、自分なりの考えを出し合ったりすることができた。友だちの思いに触れながら、一緒に遊びを進めていこうとする姿が見られている。



4 研究の成果と課題

【成果】

- ・互いのよさを知る…幼保小の交流が増えたことで互いの教育を知り、それぞれの教育で大切にしていることや目指す子どもの姿を共有することができた。
- ・小学校職員の意識の変化…幼児教育を取り入れた子どもの姿から考える授業づくりを意識するようになってきた。
- ・カリキュラムの見直し…幼保小接続でつないだ学びは、2年生、3年生へ、そして、小中連携とつながっていく。各学年の年間指導計画や学年間での学びに大きな段差がないか見直すきっかけになった。

【課題】

- ・全職員での共通理解…全年齢、全学年で子どもたちの学びはつながっている。5歳児と1年生だけの取組ではなく全教職員で取り組めるようにする工夫が必要である。
- ・日程調整の難しさ…すでに年間の行事予定が決まっていたり、校園で時間の使い方に違いがあったりと何か取組をする際に日程の調整が難しかった。次年度は、年間を見通した計画を立てる必要がある。

5 今後に向けて

本事業1年目として、まずは、互いの保育と教育を知ることから始めた。2年目は、研究を進めるにつれて見えてきた課題点の改善に努めるとともに、今年度の取組を継続し、これまで以上に気兼ねなく保育や授業の相互参観・校園の職員が交流できる場を設けていきたい。また、作成したカリキュラムを実践し、検証・見直しを繰り返していきたい。

滋賀県版「架け橋期カリキュラム」共通シート（案）

【 金田小学校区】校 園 名 (金田小学校・金田幼稚園
ありす保育園・金田東保育園)

		5 歳 児			第 1 学 年		
時期 (月)		4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3
期待する子ども像		わくわく・もっともっと・聞いて！聞いて！～心が動く体験を通して思いや考えを伝え合う子～					
てりほまで の育つ姿	幼児期の 思考力の 芽生え	いろいろなものに積極的に関わり、気づいたり発見したりする	自分なりに予想し、繰り返し試したり工夫したりする	経験したことを生かしたり、いろいろな考えに触れたりしながら、よりよいものをつくりだそうとする	新しい生活や環境に慣れ、小学校の学習や活動に興味を持つ	経験したことをもとに、何度も繰り返したり試行錯誤したりする	もっとやりたいという動機を大切にしたり、試行錯誤したり考えたりする。
	言葉による 伝え合い	自分の思いを言葉で表したり友だちの話を聞いたりする	自分の思いや考え、経験したことなどを相手に分かるように工夫しながら話す	互いの話に関心をもち、話題を共有しながらやりとりを楽しむ	新しい友だちと関わる中で自分の思いや考えを言葉で伝えようとする	友だちと話す中で互いの思いや考えを伝えたり認めたりする	友だちと話す中で、順序を意識して話したり、聞いたりしようとしている。
こと 大切に したい	単環 元	自らやってみよう、もっとこうしたいと思えるような場の工夫	探究心を引き出しながら、繰り返し試せる環境づくり	考えを出し合い、友だちと協力しながら遊びを進められる場の工夫	安心した学校生活がスタートできるように園の遊びを取り入れたり、ゆったりとした学習時間の設定をしたりする	ペアやグループ活動を取り入れる主体的に学習に取り組める導入や次の学習につながるゴール設定	
	の先 関生	子どもの「やってみよう」に寄り添い、見守ったりきっかけをつくったりする	子どもの思いに共感し、友だちと共有できるよう働きかける	子どもの思いが実現するような関わり	子どもの話を「ゆっくり」聞く	子どもの興味と教科をつなぐ	「もっとやりたい」を引き出す
	ドワ キー	「やってみよう」	「どうしてかな？こうしてみよう」	「こんな風にやってみない？」	「知っている！聞いて聞いて！」	「もっとやってみよう！」	「もっとやりたい！もっとできるよ！」
主な教育課程・予想される活動							
		朝の会・給食・トイレや手洗い場の使い方・帰りの会・振り返り活動・身の回りの整理整頓・あいさつ・読書・数量感覚・ものの数え方・時計・時間割・当番活動・そうじ (小学校から)係活動・給食当番					

研究主題:進取の心を育み、仲間と共に学びあう 雲井っ子の育成

～自ら考え、伝え合い、認め合う子どもを目指して～

1 主題設定の理由

本年度は、学びに向かう力推進事業1年目として、年度当初に、目指す子どもの姿を園と学校で共有した。その中で目指す子どもの姿を全体で明確にし、「自立心」「協同性」「言葉による伝え合い」を3本の柱として保育・授業改善に取り組むこととした。また、保小が同じ視点から子どもの育ちを見とる研修を重ねながら、滑らかな架け橋期カリキュラムを作成をし、その検証および改善を通して、動的なカリキュラム作成のサイクル実践を目指している。

2 幼児教育と小学校教育をつなぐ取組や架け橋期のカリキュラムに関する取組など

(1) 実施した主な研修会など

実施日	対象	内容等
4月14日	保小管理職 加配 5歳児担任 保主任	会議(事業に関する打合せ)
4月17日	保小管理職 加配 5歳児担任 保主任	会議(日程調整・研修内容確認など)
4月24日	小学校教員	架け橋プログラム事業に関する共通理解と研究との関連について説明
5月2日	5年担任 加配 5歳児担任 保主任	5・5交流の年間の内容打合せ
6月20日	保小管理職 加配	架け橋期カリキュラム編成委員会 指導主事講話
6月26日～28日	小学校教員	保育参観、保育園研修に加配参加
7月7日	信楽町内保小管理職、5歳児担任、1年生担任 加配	保幼小接続信楽ブロック会議①
7月13日	保育士	1年生授業参観
7月19日	保小管理職 加配	会議(研修内容確認)
7月25日～28日	小学校教員	10の姿を通して学びの姿を見とる保育体験
8月1日	小学校教員 園長 5歳児担任 保主任	合同研修会(ワークショップ 指導主事 大学教授からの講話)
8月3日	小低学年担任 研究推進委員	1年生生活科指導案検討 計画打合せなど
8月29日	小低学年担任 保担当者 加配	カリキュラム開発会議 指導案検討
10月10日	保小管理職 加配 保担当者	会議(カリキュラムの検討 公開当日の日程、役割分担など)
10月31日	保小職員 外部参会者	公開研修会 合同討議 県指導主事、大学教授からの講話
11月29日	信楽町内保小管理職、5歳児担任、1年生担任 加配	保幼小接続信楽ブロック会議②
12月20日	保小管理職 5歳児担任 加配	会議(公開研修会の振り返り 今後の取組について)
1月18日	保小管理職 5歳児担任 加配 保主任	会議(実践記録の内容確認)
1月29日	小学校教員 園長 5歳児担任 保主任	スタートカリキュラムの検討会議 県指導主事からの講話
3月(予定)	保小管理職 5歳児担任 加配	推進委員会 令和6年度(2年次)のカリキュラム取り組みについての確認

(2) 加配教員の取組

① 保育への参画

保育や園内研修に参画し、遊びに参加したり、保育環境づくりなどに取り組んだりして、保育実践や保育者の関わりについて学んだ。安全に楽しく思いを活かして活動するための工夫の様子から、小学校の授業改善に結び付けていける点について考えを深めることができた。

園で特に学んだことは、季節感や年中行事を大切に、発達段階や実態に応じた課題を職員同士が話し合いのもとに共通理解し、活動が仕組まれていることである。「0歳児～5歳児までの各集団」の見通しをもって活動を計画することが大切にされている。

小学校では、各担任が互いに学年の実践や工夫を見て学び合うという取組を重ねており、さらに園から中学校までの発達段階や育てていく資質・能力への見通しをもつことが大切であると考えた。主体性を引き出し、興味をもてる課題や有効な取組を共有し、授業改善を目指して校内研

究と関連付け、学校全体で話し合う機会を設けるようにした。

②加配通信の作成や職員会議での共有

園での「遊び」の様子を10の姿と関連付けて紹介し、小学校の各教科とも密接に結び付き、重なっていることを伝えた。小学校の職員は、年長児が幼児期に身に着け育ってきている力を知り、ゼロスタートではないことを意識できるようになった。

また保育園と学校が隣接しているよさを生かし、双方で情報交換を密にしながら、スムーズな接続を考えていく機会を設定するようしてきた。スタートカリキュラムの充実を図るために、保育の実態を知ることが大切だと共通認識できた。入学当初は園の流れに沿って、45分の時間枠や教科の枠にとらわれすぎず、柔軟に子どもの姿を見て「ゼロスタートにならない活動」を仕組むことを確認した。全体で具体的な手立てを話し合い、実践を保育の視点から参観し、その後小学校と共同で検討工夫・改善を書き込み、更に今後蓄積していくという流れを計画している。

③架け橋期カリキュラムの作成

保育および授業の改善を目標に、滑らかな架け橋期カリキュラムを、教科の流れと結び付けて全体で考える場を設定した。目指す子どもの姿の共有や、その活動に必要な環境づくり、教師の支援と工夫について話し合った。具体的な「つぶやき」を想定し、児童の思いや願いをきっかけとして、学びが始まること、教科等の学習に滑らかにつながるような配列を工夫した。

④信楽ブロック保幼小接続会議での発信

雲井保育園、雲井小学校での取組を、町内ブロックの接続会議で報告し、研修会等で学んだことを共有した。

3 実践事例

(1) 互いを知る (夏季合同研究会や保育参観・授業参観など)

1学期中に、園から1年生の授業参観、小学校から4・5歳児の保育参観を行って、互いに感想を交流した。また、特別支援学級の公開授業や他学年の校内研究授業にも参加し、小学校の生活科や総合的な学習などの実践事例に触れ、理解を深めた。

夏休み中には、小学校の全教員が保育体験をし、園での「遊び」の様子の共通動画を見て、園の先生の遊びの見取り方について学んだ。10の姿を通して見取った様子をグループで話し合い、交流をした。

また、園と小学校が同じ研修を受けたりや講話を聞いたりしたことで、同じ方向を向いて研究を進めるための機会とすることができた。グループ協議では、異なる視点や観点での話し合いができ、互いに視野が広がった。

(2) 保育・授業改善に取り組む

年度当初や夏休み中に、子どもの実態を具体的に園と小学校の双方向から出し合って共有し、目指す子どもの姿を共通理解した。

その上で、年長児と1年生だけでなく、他の学年でも子どもの「願いや思い」を活かし、「つぶやき」を拾って、児童と共に創り上げていく授業展開を取り入れた実践ができた。

2年生の生活科では、相手意識をもって取り組むおもちゃランドづくりで、豊富な素材を手に取り試行錯誤できたり、広い場所で長期間継続して取り組めたりする環境を構成することで、活動が多様に広がった。また、自分では思いつかなかった友だちのおもしろい発想に触れることで、新たなアイデアがひらめき、力を合わせて「みんなを楽しませたい」と遊びを進め、その楽しさを味わうことができた。

園でも、例えば、保育者は1つの特定の遊びにしか興味をもたない子どもの様子を見取り、実態に応じて遊びへの誘いかけや参加しやすいきっかけづくりをし、やってみようという気持ちをもてるようにしたり、協働的な遊びの楽しさに気付かせたりするような関わりを大切にされていた。子どもが葛藤を乗り越えてやってみる姿、子ども同士で対話する中で遊びを調整し工夫する姿など、成長を感じる場面が多く、幼児期に応じた「学びの振り返り」が積み重ねられていた。

(3) 出会う・親しむ・学びあう (児童交流)

1年生の生活科「秋を楽しもう」の単元では、自然豊かな里山の植物や作物に詳しい方、自然

素材で製作を得意とされる方々など、地域との出会いがあった。実際に「秋を見つけよう」と校外に出かけ、発見したり気付いたりしたものを活用した遊びに発展させていく上で、大きな力になった。

5年生の5・5交流は、従来は5年生が計画した活動に年長児が参加するという活動であったが、より充実した活動となるよう見直しを図った。年長児の担任との事前の話し合いをもち、交流する時期の行事や遊びの活動と関連させ、内容が発展する交流へと内容を工夫した。また、5年生の児童には、相手意識と「来年度の雲井小学校を ONE TEAM にするために」という願いをもとに、園と連携しながら、年間を通しての交流となるよう7月の「一緒に遊ぼう」、9月の「運動会を一緒に楽しもう」、11月の「雲井小学校の楽しいところを紹介」、1月の「もうすぐ1年生、雲井小学校へようこそ」の活動を計画し、見直しをもって進めてきた。子どもたちは、主体的、意欲的に取り組み、友だちと話し合い交流することで改善していくよさを学ぶことができた。

4 研究の成果と課題

【成果】

- ・保小の全職員が互いに保育や授業を参観し、取組の様子や大切にしていることを知ることができた。特に、小学校の全職員が「10の姿」を意識しながら子どもの活動する動画を参観したり、保育体験したりする研修をした。「遊び」の中に仕込まれている「学びや育ち」に対する見取り方について研修を深めることができた。また幼児期に育まれてきている資質・能力を小学校での学習につなげていく大切さについて共通認識することができた。
- ・「遊び」の環境づくりや保育者の関わりから、「学ぶ意欲」を引き出すことを大切にし、自らの興味関心を生かす環境構成や、必然性のある課題を解決する学習活動を図り、授業改善の視点につなげることができた。
- ・雲井地区で目指す子どもの具体的な姿を全体共有することで、0歳から12歳までの子どもの育ちを意識し、幼児期から学齢期までの児童の発達の特性を踏まえてカリキュラムをデザインすることの重要性が分かった。目指す児童の姿や、学校・園・地域の特性、保護者の願い等を、目の前の児童の実態を踏まえてデザインすることで、より効果的なもののできることを、保小職員で確認できた。
- ・職員や児童が交流するためのより具体的で効果的な時期や方法について、気軽に話し合える関係が深まった。園とは生活時間の流れが違うので、入学当初に小学校の時間割を柔軟にし、生活リズムを滑らかに移行するための手立てを、共同で改善する研究計画ができた。

【課題】

- ・施設は隣接しているが、保育・教育にあたる時間やいろいろな会議もあるため、話し合いや互いに参観する時間を確保することはなかなか難しい。より頻繁に分かりやすい加配通信の発行や、園と学校が双方向に情報交換ができる掲示板的な場の設定などの工夫が必要である。
- ・園の活動の中で培ってきた力を生かすには、学ぶ意欲を大切にしながら学習のめあてを達成する授業改善が必要である。そのため、保育者と教職員の共通理解と意見交流を継続して行う。
- ・園の環境の工夫や生活の流れを取り入れたスタートアップ期の場の設定や、時間の枠組みなどの工夫が必要である。

5 今後に向けて

- ・今年度培うことができた、児童及び職員の双方向の交流を継続しつつ、更なる工夫を図っていく。
- ・架け橋期のカリキュラムを実践・検証し、保育・授業の質の向上を図り、切れ目なく成長を支える指導の工夫を蓄積する。
- ・より具体的なスタートカリキュラムに改訂し、柔軟な時間割や合科的学習活動など、環境の工夫を学校全体で共有しながら考えていく。
- ・園は4月、5月の時期に1年生の参観を実施し、接続の視点をもって園と学校が協力しながらより効果的な取組を検討する。学校は、保育参観や体験に、10の姿の視点をもって参加する。

令和5年度 雲井保育園・雲井小学校 架け橋期カリキュラム

		5歳児			第1学年			
時期(月)		4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	
期待する子ども像		やりたいな、おもしろいな、できた、仲間と地域と共に育つ子ども ~自他を大切に~						
幼児期の終わりに育ってほしい姿	自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。			これまでの経験を活かしながら、興味のあることに自ら根気よく取り組み、やり遂げる喜びや達成感を味わう経験を重ねること			
	協同性	友だちと関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。			新しい人間関係や環境の中で、友だちや周囲の人と関わりながら、協力して活動する楽しさや、共に考え工夫を生かす良さを味わう。			
	言葉による伝え合い	先生や友だちと心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。			先生や友だちとの関わりの中で、自分の思いを言葉で伝えたり、相手の意見を聞いたりすることで、言葉による伝え合いやいろいろな考えを交流する良さを楽しむ。			
大切にしたいこと	単元環境	<ul style="list-style-type: none"> ・夢中になって遊べる時間と場所の保障。 ・材料や用具を選択しじっくりと考えて取り組んだり、やってみたい、もっとやりたいと思えたりする環境の工夫。 ・友だちと相談したり、協力したりして、思いが共有できるような場づくり。 			園での体験を学習に生かしながら、自らさまざまな教材を生かして、試したり工夫したり、友だちと共感しあったりすることができる環境。			
	先生の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが安心して自分の思いや考えを出し、身近な環境の中で意欲的に活動できるように関わる。 ・見通しをもち自ら考えて行動し、自分の力でやり遂げる満足感や達成感を味わえるように認め、共に喜ぶ。 ・一人ひとりが自己発揮しながら、友だちと一緒に考え、行動する楽しさや面白さを共有できるようにつなげる。 ・互いの良さや考えを認め合いながら、考えたり工夫したりして遊びを発展させられるように見守る。 ・友だちの話を聞いたり、考えを言葉で伝え合ったりする喜びを感じられるような環境の工夫をする。 			園の活動とつながる時間枠設定や環境づくりでステップを踏み、滑らかな接続を目指す。 生活科や体育科、音楽科、図画工作科を中心に、遊びや音楽を生かした活動を取り入れ、主体的、意欲的に取り組む課題を設定する。 受容的な関わりで、できていることを認める。 活動の見通しやめあてが分かり、自分で学びを進められるように環境を整え、支援を工夫する。 話し合い活動や協力して取り組む活動を意図的に計画し、達成感をもてるふりかえりの場を設定する。			
	キーワード	やってみたい、おもしろいな、できた、もっとしたい、仲間と共に学びあう。						
主な教育課程・予想される活動								
振り返り	戸外遊びや散歩などで春の草花や生き物に興味や関心を持ち、触れたり遊びに取り入れたりして楽しんだ。夏の遊びでは、水や泡、泥、土粘土などさまざまな感触を味わい、友だちと感じたことを伝えあったり繰り返し試したりすることで遊びに広がりが見られた。		空き箱やカップ、段ボール、秋の自然物など身近な素材を使って、制作遊びを楽しむ姿が見られた。さらに作ったものなどを使い、ハロウィンランドごっこへと発展し、友だちと一緒にイメージしたものを協力して作ったり、役割を決めたりし、繰り返し楽しむ姿が見られた。		新しい環境に慣れ親しみ、園で培ってきた力を生かした自立的な学習活動ができていた。夏の遊びでは、園で年長児クラスと一緒に活動する場面があり、自分たちで工夫して手作りしたおもちゃを率先して紹介する場面があった。学校探検をより主体的なものになるよう取り組む。		生活科の「秋を楽しもう」の活動から発展して、2年生や年長児を招待して相手意識を持ったコーナーごとの遊びの形にしたり、保護者や地域の方にも参加してもらって更に考えを深め工夫をしたりする再構築の活動へ充実していった。地域の支援が大きかった。	

		5歳児		
時期(月)	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	
期待する子ども像	やりたいな、おもしろいな、できた、仲間と地域と共に育つ子ども ～自他を大切に～			
幼児期の終わりに姿	自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。		
	協同性	友だちと関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。		
	言葉による伝え合い	先生や友だちと心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。		
幼児期の終わりに子どもが学んでいる姿が見られた	<p>「どうやったら流れるかな」</p> <p>砂場を掘って道を作り、水を流して遊んでいた子どもたちが、樋で坂道を作って高いところから水を流そうと考えた。</p> <p>はじめは傾斜をつけずに樋をつなげ、なかなか水が流れないことに疑問をもっていたが、近くにあった丸太の上に樋を置くと坂道になることに気が付き、丸太やビールケース、バケツなど大きさまざまなものを土台にして傾斜をつけ、樋をつなげていく姿が見られた。傾斜を作りながらバランスよく樋をつなげることに苦戦すると「これはどうかな」と大ききの違う土台を持ち寄ったり、「ここ持つからつなげてみて」と試行錯誤を繰り返したりしながら、うまく遊びを進めていた。</p> <p>樋が上手くつながり水が流れるようになると「何か流してみようよ」とスズランテープをそうめんに見立てて流す“流しそうめんごっこ”に発展した。自分たちで水を流す役とそうめんを流す役、そうめんを食べる役に役割分担をし遊ぶ姿が見られた。「今から流すよ」「もっと流してくれる?」「ちょっと水が足りないんじゃないかな」とやり取りをしながら遊びを楽しむ姿が見られた。遊んでいく中で一回に流すそうめんの量を調節したり、たくさん水を流すと、速くそうめんが流れることに気付いたり、いろいろな方法を試したりして、工夫しながら遊ぶ姿があった。さらに「もう一つコースがあったら面白そう」「もっと長くしたい」との声もあり、友だちとアイデアを出し合い、協力しながら遊びを広げていた。</p>	<p>「ハロウィンランドを作ろう」</p> <p>大きな段ボールを使っていろいろなものを作って遊ぶ中で、できたトンネルを”おばけトンネル”と名付け、それをきっかけにおばけがたくさん住んでいるハロウィンランドを作ることにした。</p> <p>絵本などで見たおばけや妖怪を参考にしながら、思い思いに画用紙やビニール袋でおばけに見立てたものを作り、「暗いところに置いてみようよ」「もっと広いところはないかな?」と考えた結果、作ったものを遊戯室へ持っていき、段ボールの壁や、黒い布、カーテンなどを用いて遊戯室全体を暗くし、ハロウィンランドを作り始めた。来た人を驚かすためにはどんなものが必要か子どもたち同士で考え、「箱に入って隠れよう」「おばけにひもをつけて引っ張ってみよう」「壁の穴から手を出すのはどう?」「お面をつけたらどうかな?」などイメージが広がっていき、身近な素材を使って仕掛けやおばけになりきる衣装などを作っていき姿が見られた。</p> <p>ハロウィンランドが完成すると、おばけ役、案内役、お客さん役など役割を決めて遊ぶ姿が見られるようになった。また、自分たちだけでなく異年齢の友だちや保育者にも遊びに来てもらおうと「みんなにどうやって知らせよう」「来てくれた人に何か渡すのはどうかな」と相談し、招待チケットや案内のチラシ、来てくれた人へのプレゼントなども作り始めた。自分たちでイメージを膨らませて遊びを広げていったことや異年齢児の友だちもたくさん遊びに来てくれたことで充実感や満足感、達成感を味わいながら遊ぶことができた。</p>		
	 <p>高いところから流したら速く流れるかな?</p>  <p>もっと樋をつなげて長いコースを作ってみよう!</p>	 <p>後ろからひもを引っ張ると首がおばけが出てくるよ。</p>  <p>トンネルの中にもカーテンをつけたらもっと怖くなりそう!</p>		
トカ他園のこども学校	<p>様々な道具や素材を使ってイメージ通りのものを作ることは、これまで多く経験してきている子どもたちは、砂場と水に創作の場を設定したことで、予測していたよりダイナミックで継続的な遊びの活動となった。様々な大ききの丸太やビールケース、バケツ等数多く準備したことで、作り上げたい傾斜スロープをバランスよく置くためのアイデアが次々出てきた。また、土台に適したものを選ぶ必要性に気付いていた。次第にイメージが膨らみ、流しそうめんを作る遊びに広がったが、子ども同士イメージを伝え合い、助け合いながら、一緒に作り上げる喜びや、できたもので一緒に遊ぶ楽しさを共有できていた。</p> <p>友だちとアイデアを出し合いながらおばけやしき遊びを工夫して楽しむ姿が見られた。「明日はもっと怖くしよう」と目的を共有したことで、子どもの遊びがより協同的なものになっていった。子ども同士が思いや考えを出し合いながら遊びを進められるような保育者の関わりや、場の設定・時間の確保が、自分だけでは思いつかなかった友だちの面白い発想に触れ、新たなアイデアがひらめいたり、力を合わせることでみんなを楽しませる遊びを進めたりする楽しさを味わうことができたように思う。</p>			

		第1学年		
時期(月)	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	
期待する子ども像	やりたいな、おもしろいな、できた、仲間と地域と共に育つ子ども ～自他を大切に～			
てり幼 ほま児 しで期 いにの 姿育終 っわ	自立心	これまでの経験を活かしながら、興味のあることに根気よく取り組み、やり遂げる喜びや達成感を味わう経験を重ねることで自信をもつ。		
	協同性	新しい人間関係や環境の中で、友だちや周囲の人と関わりながら、協力して活動する楽しさや、共に考え工夫を生かす良さを味わう。		
	言葉による伝え合い	先生や友だちと関わりの中で、自分の思いを言葉で伝えたり、相手の意見を聞いたりすることで、言葉による伝え合いやいろいろな考えを交流する良さを楽しむ。		
幼児期の終わりに子どもが育っている姿が見られた	<p>生活科「夏がやってきた」</p> <p>年度初めの学校探検で校内を見て廻り、様々な施設やいろいろな人がいることに気が付いた1年生は、そこで遊んでみたり、新しい楽しみ方を見出したりして友だちとさまざまな活動をやってみたいという願いや思いをもった。</p> <p>幼児期の経験を想起して共有し、安心感をもって砂遊びやシャボン玉づくりなど、夏の遊びを楽しんだ。まず「春みつけ」で季節によって違う周囲のさまざまなものを使って遊んだ学習とも関連させ、「暑い夏に楽しめる遊び」について問いかけると、「砂場の水遊び」「シャボン玉」が出てきた。「園でもね、山や川をみんなで作って足を入れたら気持ちよかったよ。」子どものつぶやきや発表を拾い、みんなでめあてを共有して活動の見通しをもたせた。</p> <p>園で親しんできた場所とは違い、また多彩なおもちゃや道具はないが、これまでの経験などを関連付けながら遊びを工夫する姿が見られた。試行錯誤を繰り返して、友だちと協力して遊びを作り出す面白さや、自然の不思議さ、材料や道具を工夫するための考えを巡らせ成功した時の手ごたえや達成感をもっている姿が見られた。更に、個々の遊びが、同じ遊びをするグループで発展したり、役割分担や協働作業が生まれた。</p> <p>小学校の新しい先生や環境と関わることで、新しい発見が生まれていた。単元の途中で教師が板書しながら「新たな思いや工夫」をまとめたり、振り返ったりする活動を取り入れながら、学習課題に対して解決するための支援や、気付きに対する共感や賞賛を行った。グループ内やグループ間での情報共有をできるように、話し合い活動の設定も大切に、共有するよさにも触れられるようにした。最後の振り返りシートでは、振り返りの文章の書き方、ひらがなが文字の書き方について丁寧に指導し、また絵や発言からも思いを読み取った。</p> <p>園で年長組の友だちと一緒に夏の遊びをしたいという願いも出てきて、さまざまな出会いにより、工夫したり考えたりする場面が広がった。実際に、共に活動する場面になると、自分たちが遊ぶことに夢になってしまう場面もあったが、ふりかえりをする中で、相手意識をもって遊びを準備するとよいと気付いた。</p>  <p>どうしたらうまくできるかな</p>	<p>生活科「秋を楽しもう」</p> <p>園での「秋遊び」の経験を思い出させるような問いかけや、「春」「夏」から進んだ季節の特徴へ気付きをもたせるようにした。「秋」はどんな季節であるか、絵本や写真、映像などでもイメージを膨らませ、子どもたちの経験からの言葉を大切にしたい。</p> <p>9月下旬には校外学習で「かわべ生き物の森」に行き、自然のものを素材にした制作物づくりを経験した。そして、図書館でも「秋遊び」の本と出会う中で、もっといろいろな工夫をして遊びたいという願いをもつようになった。</p> <p>校区内の公園、神社、お寺、畑などへ出かけ、自然に出会い、たっぷりと浸る中で、興味を深めていった。実際に遊びに出かける場で、地域の方々からも「こんなものも作れるよ」「小さいときにこんなことをしていたよ」と紹介してもらい更に経験が広がった。1学期の「夏祭り、お店屋さん先生や2年生を招待しよう」の活動の経験も関連させて、「秋の葉っぱや実、植物を使っておもちゃコーナーを作りたい」「また2年生を呼びたいな」「去年は年長の組に秋のおもちゃが届いたね、ぼくたちもやりたいね。」という思いや願いが出てきた。</p> <p>地域の方をゲストティーチャーとして招き、更に工夫が展開していった。子どもたちの思いや願いに寄り添いながら活動を進め、2年生からのアドバイスを生かして更に工夫を重ねたり、昨年度の経験から「園に招待状を書こう」という意欲を見せたりして学びを深めていった。</p>  <p>畑の先生、その実はなんて名前なの？</p> <p>もっと面白くなるように工夫しよう。</p>  <p>更に保護者を招待したいという願いも出てきたので、参観をしてもらった。遊びを一生懸命紹介したり、工夫したところを伝えたりして、「すごいね、がんばったね」と認められ、達成感をもつことができた。次の活動への意欲にもつながっていった。</p> <p>園で体験してきたことを昨年度の年長担任から聞くことで、より具体的に結びつけて学習を進めることができた。小学校の生活科で取り扱う内容も伝えることができ、相互の理解が深まった。</p>		
トカ他 ら園 の・ コ小 メ学 ン校	<p>小学校は1年生にとって大きく広い空間であり、学校探検で出会う新しいことに対するワクワクと、幼児期の経験を踏まえての授業になった。砂遊びやシャボン玉づくりは、個々が没頭して遊べることや、個別の活動がどんどんつながっていく良さがあり、子どもの工夫や何回も挑戦する楽しさが発揮できる活動だった。2年生や年長児との関りの広がりから、相手意識と工夫という発想が生まれてきた。</p>	<p>地域に自然が豊かにあり、秋を感じるものが多様にある環境を生かし、園での経験と結びつけながら活動を展開した。おもちゃをつくって遊びたいという考えを「校外学習の体験」から想起し、地域の人材を生かすことで工夫の幅が広がった。試行錯誤する中で、相手意識をもって「もっと楽しいものにしたい」という意欲がもてた。先に教師側から「園を招待するよ」等というめあては提示しなかったが、主体的に活動する中で自然に相手を設定して活動を発展させることができた。</p>		